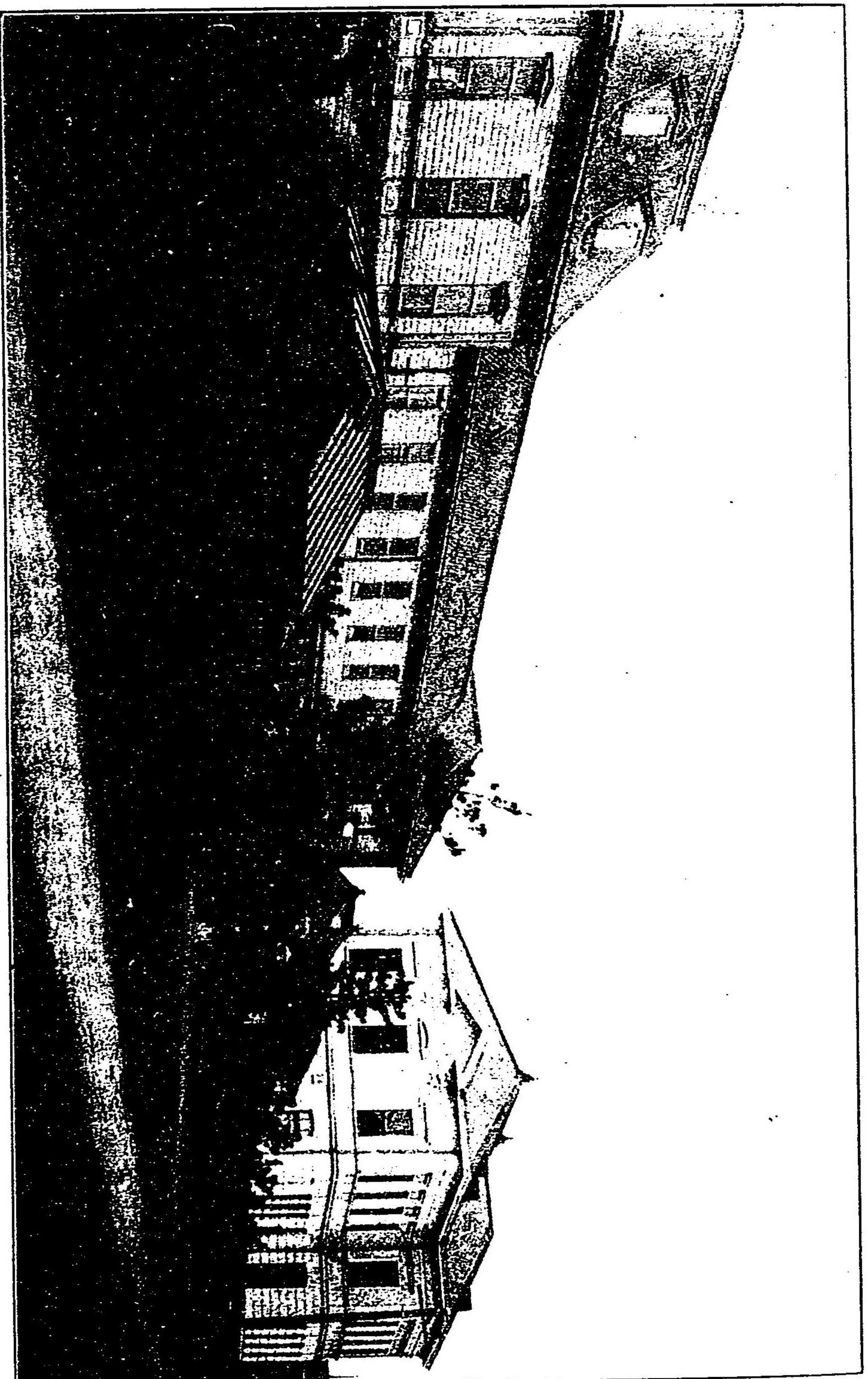


296

2

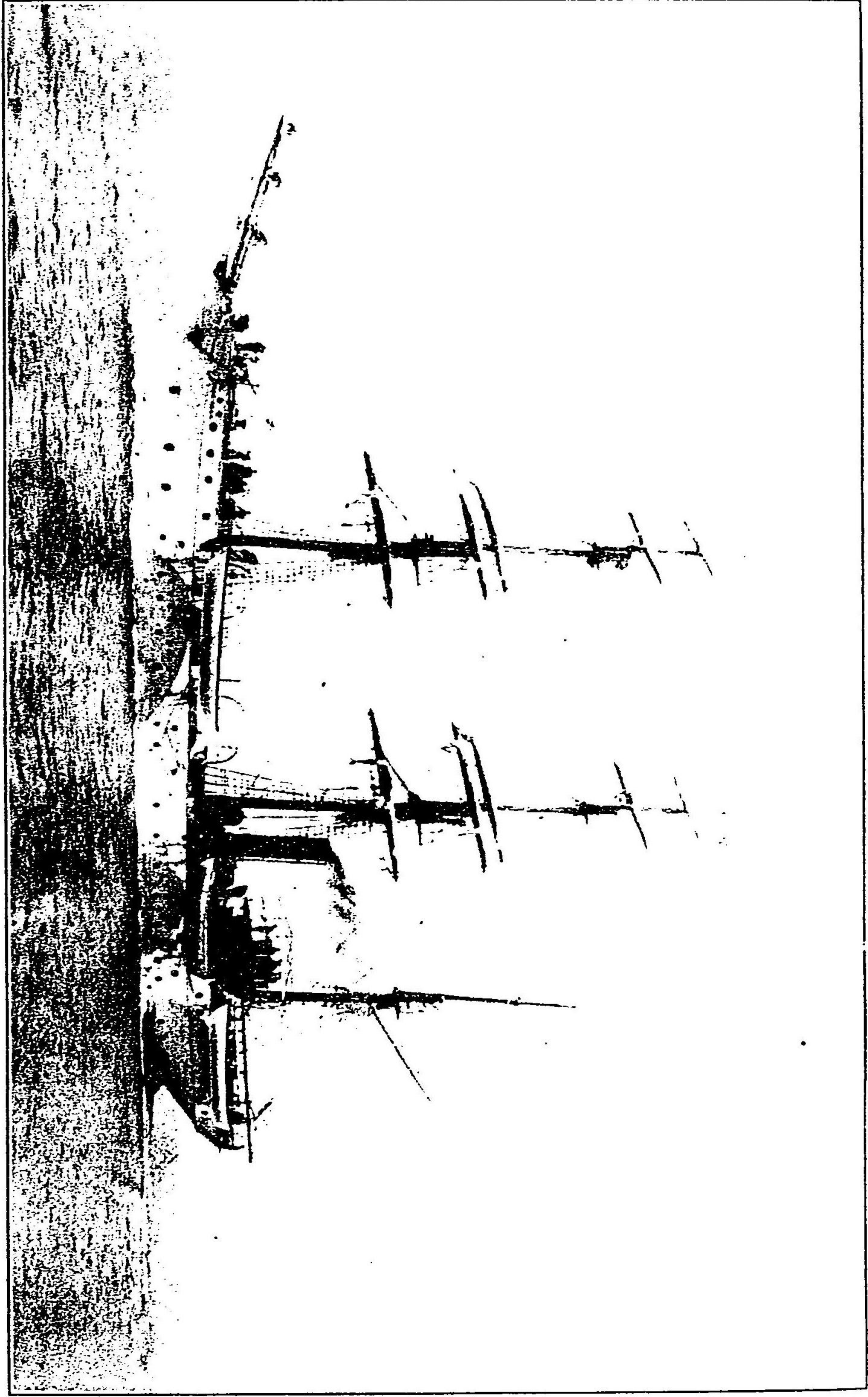
水產講習所一覽

自明治四十三年六月
至明治四十四年七月



水產講習所本館

九 艦 呼



水產講習所一覽

第一章 沿革及組織

沿革概要

官制

業務規程

商議委員規程

水產講習所在外研究生規程

商議委員

傳習部

職員

規則及規程

水產講習所傳習規程

二 遠洋漁業練習生規程.....二〇

三 水產講習所傳習規程.....二四

四 特殊技術員養成科規程.....二八

五 實習規程.....三二

六 生徒心得.....三六

七 寄宿舍規程.....四〇

八 圖書保管及借覽規程.....四四

第三節 實驗實習.....四八

一 本所實習.....五二

二 所外實習.....五三

第三章 試驗部.....五七

第一節 職員.....六一

第二節 水產講習所試驗規程.....六四

第三節 事業.....六五

43. 8. 12
內交

第四章 本所敷地並建物

第一節 養舍.....七四

第二節 實習ニ關スル設備.....七七

一 漁撈科.....七八

二 製造科.....八二

三 養殖科.....八二

第五章 生徒

第一節 在學生徒.....八六

一 生徒姓名.....八六

二 在學生徒府縣別.....九六

三 在學生徒年齡.....一〇〇

四 遠洋漁業科生徒乗船表.....一〇二

第二節 卒業生徒.....一〇三

一 卒業生徒及其就職.....一〇三

二 卒業生徒狀況.....一六三

學年曆 (自明治四十三年九月十一日 至同四十四年九月十日)

明治四十三年九月十一日.....學年始 (第一學期始)

同 九月廿四日.....休業 (秋季皇靈祭)

同 十月十七日.....同 (神嘗祭)

同 十一月三日.....同 (天長節)

同 十一月廿三日.....同 (新嘗祭)

同 十二月廿四日.....第一學期終

同 十二月廿五日.....冬季休業始

明治四十四年一月七日.....冬期休業終

同 一月八日.....第二學期始

同 一月三十日.....休業 (孝明天皇祭)

同 二月十一日.....同 (紀元節)

同 三月廿一日.....同 (春季皇靈祭)

學年曆

明治四十四年三月廿二日	紀念日
三月卅一日	第二學期終
同 四月一日	春季休業始
同 四月七日	春季休業終
同 四月八日	第五學期始
同 七月十日	學年終 (第三學期終)
同 七月十一日	夏季休業始
同 九月十日	夏季休業終
同 每日曜日	休業

明治四十四年三月十日
 日本水産會
 第三學期終

水産講習所一覽

沿革及組織

本所ハ明治三十一年四月開設シ水産ニ關スル學理ト技術トヲ授ケ諸般ノ試験ヲ行ヘ
 而シテ本所ハ日本水産會ノ設立セシ水産講習所在學ノ生徒ヲ引繼キタルヲ
 以テ其沿革ヲ摘録スルニト左ノ如シ



明治二十七年一月大日本水産會ハ水産教育ノ必要ヲ主張シ寄附金ヲ以テ水産傳
 習所ヲ東京橋區木挽町厚生館内ニ假設シ○同年七月日本橋區箱崎町ニ移轉シ
 後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ轉セリ○明治二十六年五月農商務省ハ一箇年
 金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑托シタルヲ以テ更ニ費合ヲ三田四國町
 二番地ニ新築シテ修業年限ヲ三箇年トシ教務ヲ擴張セリ○明治二十七年一月文
 部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス○
 同年九月卒業生ヲシテ漁船船員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ

沿革概要

特別入學ノ制規ヲ定ム○明治二十九年十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑托シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ○同年第九議會ニ於テ衆議院ハ水産講習所ノ官設ヲ建議シ○明治三十年農商務省ハ其費用ヲ第十議會ニ請求シ官設トナシタルニ依リ水産傳習所ハ茲ニ三月十一日限り閉所セリ

明治三十年三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上ト改メ修學ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スル者ヲ爲ノニ研究科ヲ設ケ修業ヲ一箇年以内トシ舊水産傳習所ノ費合ニ修繕ヲ加ヘテ之レヲ開設シ藤田四郎所長トナル○明治三十一年三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル○同年六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス○此月研究科ノ修業年限ヲ三箇年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス○同年七月現業科細則及傳習要項ヲ定メ同九月初メテ

罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル○同年十月官制及庶務規程ヲ改正ス○同年十一月牧村眞所長トナル○同三十二年一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ○同年十一月巾着網漁業ノ現業生徒ヲ募集ス○明治三十三年一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈製造養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業練習科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ○同年三月勅令第七十二號ヲ以テ官制第二條中改正○同年六月神奈川縣下小田原町ニ所外製造實習場ノ建築ニ着手シ同年七月其工ヲ竣ヘ同八月開場式ヲ舉行ス○同年九月深川區越中島ニ本所費合ノ新營ニ着手シ三十六年三月其工ヲ竣ユ現在ノ費合即是ナリ○同年九月漁撈實習ノ爲メ帆船ノ新營ヲ府下石川島造船所ニ依囑シ翌三十四年四月其進水式ヲ舉行シ快鷹丸ト命名ス○同年七月ヨリ漁撈科第三學年生徒ヲ乘組マシメ各種漁業ノ實習ヲナサシム○同年四月勅令第四十二號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同年六月初メ鯉節其他節類

現業科生徒ヲ募集ス○三十五年四月文部省ヨリ水産教員養成ノ囑托ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス○同年五月初メテ文部省ハ本科生徒中卒業後教員志望ノモノヘ實業教員養成規程ニヨリ學費ヲ補給ス○同年六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講究會授業ノ囑托ヲ受ク○同年九月現在ノ費合ニ移轉ス○同十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ○三十六年十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラル○是月官制ヲ改正シ專任ノ所長ヲ置ク松原新之助所長トナル○三十七年二月處務規定ヲ改正シ更ニ處務細則及試驗部規定ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ○同三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス○同四月千葉縣下元鹽業調查所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ○三十八年六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ○同年同月製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ○三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍食罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ○三十九年二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ○同年四月以太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ノ出品ヲナシ同年十一月萬國審

査委員ニ於テフオリヨシヨルソ(競争セサル名譽出品ト認メラレタリ)○四十年三月冷蔵法練習生養成ノ内規ヲ定メ現業科トシテ生徒ヲ募集セリ○四十年四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ廿年本所又開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ紀念ノ式典ヲ舉ケ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ヲ觀覽ニ供セリ○同月勅令第四百十七號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生トシテ其授業ヲ開始セリ○同九月六日實習船隼丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ工ヲ起シ同年十二月二日其ノ進水式ヲ舉ケ同月廿九日ヨリ生徒ノ實習ニ使用セリ○同九月九日實習船快鷹丸總噸數百四十噸ヲ實習中韓國迎日灣ニ於テ風波ノ難ニ遭ヒ避難ノ途ナク同灣日冬外串ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚ケラレ忽ニシテ破壊シ終ニ教官一名生徒三名ハ此難ニ殉スルノ不幸ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ本所ハ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失シ止ヲ得ス民間實業者之漁船ニ乘組實習セシメタルモ規定ノ期間内ニ於テハ豫定ノ實習ヲ完了セシムルコト能ハサリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ハ四十年十月マテ延期シテ其實習ヲ繼續セリ○四十年十月廿五日勅令第三百廿九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セラル○四十一年十一月二十五日勅令第二百八十

五號ヲ以テ官制第二條中改正ス○四十二年三月三十日勅令第七十七號ヲ以テ官制第二條中改正ス○本所へ速ニ快鷹丸代船新造ノ必要アルヲ以テ四十年十一月追加豫算ノ請求ヲ爲シ議會ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直ニ工學博士寺野精一、工學士岡田少三郎同松田勉三ノ三氏ニ其設計ヲ囑托シ設計成リタルヲ以テ四十一年五月一日大阪鐵工所ニ命シ其ノ建造ニ着手シ四十二年二月廿一日進水式ヲ舉行シ機裝ヲ整ヘ同年三月三十日大阪港外ニ於テ試運轉ヲナシ五月十七日東京ニ廻航シ同月卅日ヨリ生徒ノ實習ニ使用セリ○四十一年十一月本所構内ニ圖書及標本室ノ建築ニ着手シ四十二年三月其工ヲ竣ヘタルヲ以テ四月從來ノ圖書及標本室ヲ此所ニ移轉セリ○四十一年十一月四日千葉縣下館山灣高島ニ臨海實驗場ノ建築ニ着手シ四十二年三月竣工セシヲ以テ同月卅日開場式ヲ舉テ五月ヨリ養殖科生徒ノ實習ヲ開始セリ○四十二年六月始テ貝殼彫刻ノ現業科生徒ヲ募集シ九月ヨリ其授業ヲ開始ス○四十二年十一月アラスカニ太平洋博覽會ヨリ本所出品ニ對シ木賞牌ヲ受ク○四十三年一月本所試驗規程ヲ改正シテ一般當業者ヨリ試驗或ヤ鑑定ノ依頼ニ應スルコトトシ又經費ヲ増加セリ○四十二年三月勅令第八十四號ヲ以テ官制第二條中

改正○四十三年三月特殊技術員養成科規程ヲ定メ製鹽技術員養成科規程ハ之ヲ廢止セリ○同月初メテ特殊技術員養成科中製鹽科生徒ヲ募集セリ

一、官制

勅令第四七號明治三十年三月二十二日
勅令第二八九號明治三十一年十月二十二日改正
勅令第三六號明治三十六年十二月四日改正
勅令第八十四號明治四十三年三月二十六日改正

勅令第一四七號明治四十年四月二十三日改正
勅令第二百八十五號明治四十一年十一月二十五日改正
勅令第七十七號明治四十二年三月三十日改正

第一條 水産講習所ハ農商務大臣以テ管理ニ屬シ水産ヲ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人
- 技師專任 七人
- 教授專任 四人
- 技手專任 七人
- 助教專任 四人

官制 處務規則

書記專任

四人

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全
般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第五條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第六條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第八條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス農商務大臣ノ命ニ依リ
得

第九條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ
得

三、庶務規定

(農商務省訓令第四十號明治三十一年十一月二十八日) 同 第三號同三十七年一月二十一日改正
水産講習所處務規程

第一條 水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス

第二條 水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾
分ヲ委任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第三條 水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ハ止所中處務細則又ハ講習及試験ニ
關スル規程ヲ設クルコトヲ得

第四條 水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

第五條 水産講習所長ハ講習及試験ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報
告スルコトヲ得

第六條 但臨時必要ト認めテ其都度報告スルコトヲ得

第七條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第八條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

四、商議委員規程

(農商務省訓令第十號明治三十一年四月十九日) 水産講習所處務規程
商議委員規程 水産講習所在外研究生規程

商議委員規程

水産講習所在外研究生規程

第一條 水産講習所官制第九條ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク

第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

一 農商務省高等官

二 海軍省文部省逓信省又ハ其所屬高等官

三 水産ノ經歷アルモノ

第三條 商議委員ノ會議ニ附スル等モ以テ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則

其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條 商議委員會ハ農商務大臣ヲ諮問アルヲキテ意見ヲ陳述因可シ

第五條 商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會於テ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ハ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告ス可シ

五、水産講習所在外研究生規程

勅令第三百二十九號(四十年十月廿五日)

第一條 水産講習所在外研究生ハ外國ニ於テ水産ニ關シ須要ナル學術技藝ヲ研究

セシムル爲メ水産講習所ヲ卒業シタル者又ハ水産講習所ノ技術官若シ教官中ニ就

キ農商務大臣之ヲ命ス

第三條 水産講習所在外研究生ハ研究ニ關シ事項研究地及在外期間等ハ農商務大

臣之ヲ指定ス

第三條 水産講習所在外研究生ニハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ一年金千八百圓

以内ノ手當ヲ支給ス但シ各地巡歴研究ノ必要アルトキ其ノ他特別ノ事由アルト

キハ相當ノ手當ヲ増給スルコトヲ得

第四條 水産講習所在外研究生ニ對シ判任官ニ準シ旅費及支度料ヲ支給ス

前條但書ノ場合ニ於テ在官者ナラトキ手當ヲ増給ス其ノ官相當ノ旅費ヲ支

給スルコトヲ得

旅費及支度料ヲ支給方法外國旅費規則ニ依ル

第五條 在官者ニ對シテ研究ニ命ぜられたル者本邦出發日五日前歸朝ヲ日迄定

員外ニ置キ奉官ノ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分ノ一以内ヲ支給

スルコトヲ得... 第六條 水産講習所在外研究生の歸朝の日を其在外期間の三倍に相當スル期間
間農商務大臣又指定スル職務ヲ從事スル義務ヲ有ス

第七條 水産講習所在外研究生ニシテ農商務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ不都合ノ行
爲アリタルトモハ農商務大臣ハ其ノ支給シタル手當旅費及支度料ヲ全部又ハ一
部ヲ償還セシメ水産講習所在外研究生タル者ニシテ歸朝後前條ノ義務ヲ盡サ
サル者亦同シ

附... 本令ハ公布ノ日ヨリ施行スルニ依リ農商務大臣ノ命令ニ依リ
第六條 商議委員
本所商議委員規程ニヨリ目下委嘱申索商議委員左列如シ

海軍中將男爵 肝付 兼行
農商務大臣 尾崎 士郎
農商務省商務局長 高橋 正五郎
農商務省技師 尾崎 幸次郎
農商務省技師 尾崎 幸次郎
農商務省技師 尾崎 幸次郎
農商務省技師 尾崎 幸次郎

逓信省管船局長
文部省實業學務局長
貴族院議員
工學博士
内 田 嘉 吉
真 野 文 二
田 中 芳 男
牧 朴 眞
細 山 半 三 郎

所長
技師 松原新之助

第二章 傳習部

第一節 職員

技 師
製造化學(化學有機化學)冷藏法 試驗部長 理學士 吉 岡 哲 太 郎
應用動物學(魚類習性) 農商務技師 北 原 多 作
食品論(罐詰及凍乾品)漁獲物處理法 製造科主任主任 伊 谷 以 知 二 郎
生徒取締主任

職員

雲鷹九船長

漁撈論(網漁業)

漁船論

漁船運用術

漁撈論(遠洋漁業)

教授

應用植物學、鹹水養殖(藻類蕃殖法)

應用機械學、漁撈論(材料)

鹹水養殖、應用動物學、發生學

經濟(漁政)外國語

技手

製造實習

淡水養殖(冷水性魚族)應用動物學

漁船論(日本形漁船)

漁撈科主任

工學士

農商務技手

理學博士

養殖科主任

機械監督

圖書標本科主任

庶務課長

淺利孝爾

川合角也

岡田少三郎

黑田九萬男

小瀬次郎

岡村金太郎

崎田弘

妹尾秀實

三井米松

田和駒吉

越田德次郎

關根磯吉

食品論(鹽藏品、罐製品)

化製品論(魚油、蠟、魚膠)

化製品論(皮革)

漁撈實習、漁撈論(釣漁業)

助教

教務

淡水養殖(溫水性魚族)水質及餌料

化製品論(製鹽)化學實驗、分析實驗

微生物實驗

書記

庶務

教務

會計

會計 講師

職員

鍋島熊道

菊池健

益滿行綱

鎌田武造

宮崎賢一

白暮忠

野元俊一

木村金太郎

西山小太郎

山田德助

小澤嘉助

淵上保喜

十五

文書掛兼會計掛主任

農商務屬

航海術運用術	海軍大佐	岸榮太郎
製塩法	專賣局技師	農藝化學士 奧健藏
鹽專賣法	大藏書記官	法學士 松本重威
應用動物學	東京帝國大學農科大學教授	理學博士 岸上小鎌吉
氣象學	中央氣象臺技師	理學士 大石和三郎
微生物學、肥料論	大藏技師	農學士 西村金寅三
海洋學		子爵 田中阿歌磨
化學(無機化學)分析		工學士 市野金一郎
囑托		兼 (在官者以外ノ就職願)
化製品論(製革)	東京高等工業學校教授	豐丸勝二
外國語(英語)		兼 エヌ、エフ、ラー、コッ、ツ
製造化學(生理化學)		農學士 山田川
動物		理學士 中澤毅
外國語(獨逸語)	文クトル、ガフ、フ、ロソフ、I士	兼 山田川

鹽檢查法	專賣局技師	立木幸三
漁撈論(釣漁業)		中村利吉
數學、簿記、物理		池上泰次郎
雲鷹丸機關長		吉元榮之助
法規		高橋順平
植物實驗		農學士 桑田義備
動物實驗		理學士 柳直勝
漁撈法(雲鷹丸乘組)		小金九増次郎
救急療法		北村銀平
外國語(經濟)		檜山剛三

第二節 規則及規程

一、水產講習所傳習規則

農務省告示第七號
 明治三十年四月制定同三十一年一月及九月改正追加
 農務省告示第九號明治三十年七月及四月改正

水產講習所傳習規程

第一條 本所ニ本所産ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス

第二條 本所ニ本科遠洋漁業科研究科及現業科ヲ置ク

第三條 本科ハ漁撈製造及養殖ハ三科ニ分テ各科ニ必要ナル學理及技術ヲ專修セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス

第四條 遠洋漁業科ハ本所實習船又ハ其ノ他ノ船舶ニ乗組ミ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス但シ修業年限ハ時宜ニ據リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 研究科ハ既修學科ノ蘊奧ヲ研究セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年以内トス

第六條 現業科ハ漁撈製造養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシメ其ノ修業年限ヲ一箇年以内トス但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第八條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第九條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス
一 本科ニ於テハ年齢滿十七歳以上ニシテ中學卒業者ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有

スルモノ

二 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業練習生規程ニヨリ採用セラレタルモノ又ハ本所

漁撈科卒業生

三 研究科ニ於テハ本科ノ卒業生

四 現業科ニ於テハ三箇年以上水産ノ實業ニ従事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ

一年齡二十年以上三十年以下ノモノ

第十條 本科ヲ卒ヘタルモノニハ卒業證書遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタルモノ

ニハ證明書現業科ヲ卒ヘタルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第十一條 本所ニ在學シテ學術優等品行方正他ノ模範トナルヘキモノハ特待生ト

ナシ學費ヲ補給スルコトアルヘシ

第十二條 本所ノ規則等其ノ他ニ違フシ若ハ風儀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ

其ノ情狀ニヨリ懲罰受處又ハ之ニシテ除名ス

第十三條 學業ノ怠惰或ハ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十四條 本規則施行ニ關スル規定ハ水産講習所長之ヲ定ム

附則

第十五條 本規則ハ明治三十七年七月十二日ヨリ之ヲ施行ス但シ入學ニ關スル規定ハ明治三十七年度募集ノモノニ之ヲ適用ス

一、遠洋漁業練習生規程

農商務省告示 第十百二十六號
明治三十一年五月六日制定同三十三年九月改正
農商務省告示 第九十二號 明治三十七年四月改正
同 第九十九號 同三十八年五月改正

第一條 遠洋漁業練習生ハ本科生及簡易科生トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ選拔採用ス

一 本科生

水産講習所本科漁撈科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者

二 簡易科生

一、各種水産學校又ハ地方水産講習所ニ於テ漁撈ニ關スル學科ヲ卒業シタル者

二、五年以上航洋船ニ乗組運航ニ従事シタル者又ハ二年以上沖合ノ漁業ニ従

事シタル者

第二條 前條ニ依リ採用セラレタル者ハ本科生ニ在リテハ水産講習所遠洋漁業科

簡易科生ニ在リテハ水産講習所現業科ニ於テ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習

セシムルモ少トス但シ農商務大臣ニ於テ外國ノ船舶ニ乗組ヲ命シタル時又ハ

外國ニ派遣ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 遠洋漁業練習生ノ修業年限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外本科生ハ三

年簡易科ハ一年トス

第四條 遠洋漁業練習生採用ノ員數時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之

ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條 遠洋漁業練習生ハ志願者ハ第一號書式ニ依リ願書ニ履歷書及醫師ノ體格

検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 遠洋漁業練習生ニ採用セラレタル時ハ一週間以内ニ第二號書式ニ依リ

證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産ヲ有シタル者タルコトヲ要ス

保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ定メ遲滞ナク之ヲ届出ヘシ

第八條 遠洋漁業練習生ニハ其ノ修業年限間相當ノ月手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

外國ニ派遣ヲ命シ又ハ外國ニ於テ旅行ヲ要スル調査ヲ命シタルトキハ前項ノ外別ニ旅行手當金ヲ支給スルコトアルヘシ

第九條 遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ考查シ修業證書ヲ下付ス

第十條 農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

第一號書式

第一號書式 遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年月日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓名 印

生年月日

族籍住所職業

保證人 姓名 印

農商務大臣爵氏名殿

第二號書式

印 紙

水産講習所傳習規則

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿
論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證
人ニ於テ速ニ償還可致候也

第 二 章
年 月 日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓 名 印

族籍住所職業

保證人 姓 名 印

農商務大臣爵氏名殿

三、水産講習所傳習規程

第一章 總則

第一條 本所ニ於テハ水産ニ關スル學理及技術ヲ授ク

第二條 本所ニ本科遠洋漁業科及現業科ヲ置ク

第三條 本科ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ修學セシム

第四條 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシム

第五條 研究科ニ於テハ既修學科ノ蘊奧ヲ攻究セシム

第六條 現業科ニ於テハ漁撈製造及ヒ養殖ニ關シ種目ヲ限リ其ノ實技ヲ習得セシム

第七條 修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ各三箇年研究科ハ三箇年以内現業科ハ一箇年内トス

第八條 各科募集ノ人員時期其他募集ニ關シ必要ナル事項ハ毎年之ヲ定メ廣告ス

ヘシ

第二章 本科規程

一 學科課程

第九條 本科ハ一箇年ヲ以テ一年トス其ノ學科及課程左ノ如シ

水産講習所傳習規則

習實及驗實	計	學科目										學年		
		外規	法用	應機	應植	應動	微生	分菌	化析	製學	化論		食品	
製微分	計	國	濟	機	植	動	生	菌	析	學	學	論	論	第一學年
生		及	簿	械	物	物								第一學年
造菌析學		語	記	學	學	學	學	學	學	學	論	論		第一學年
														第二學年
														第三學年
														不定時

習實	計	學科目										學年		
		救外	法規	數獲	漁用	應機	漁船	應植	應動	氣象	海洋		漁船	航運
運航網漁	計	國	濟	機	植	動	象	洋	運	海	撈	用	論	第一學年
釣船		急	濟	處	械	物								第一學年
用具運		療	及	理	物									第一學年
製		簿	簿											第一學年
術術作用		法	語	記	學	法	學	論	學	學	學	術	術	第一學年
														第二學年
														第三學年
														不定時

		養殖科		
學科目		第一學年	第二學年	第三學年
淡水養殖	水	三	三	不定時
鹹水養殖	水	三	三	不定時
動物飼育	動物	三	三	不定時
植物飼育	植物	三	三	不定時
應用微生物	微生物	三	三	不定時
發芽	生	三	三	不定時
海産物	洋	二	二	不定時
化學	規	三	三	不定時
法	國	二	二	不定時
外國	及	四	四	不定時
圖	簿	二	二	不定時
計	計	二四	二二	不定時
實驗及實習	實驗	第三學期二回	一回	不定時
植物	植物	(第一學期第一回)	一回	
動物	動物	(第二學期第一回)	一回	
藻類	藻類	一回	一回	
發芽	發芽	一回	一回	
養殖	養殖	一回	一回	
實驗	實驗	一回	一回	
實習	實習	一回	一回	

數學ハ代數幾何三角術圖書ハ自在書外國語ハ英語トス

第二學年學期及休業

第十條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第十一條 本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十二條 休業日左ノ如シ

- 一 大祭及祝日
- 二 冬入學休業 自十二月二十五日至翌年一月七日
- 三 紀元念日 三月二十一日
- 四 春入學休業 自四月七日至四月十一日
- 五 夏入學休業 自七月十一日至七月十五日

第十三條 實習ハ休業中ト雖時宜ニヨリテ從事セシメ本科第三學年及遠洋漁業科

水産講習所傳習規則

ニ於テハ夏季休業ヲナサズ
三、入學

第十四條 入學ハ學年ノ始メトシ學年ノ終リニ於テ入學試業ヲ行ヒ之ヲ許可ス

第十五條 入學志願者ハ三科中一科ヲ撰ヒ入學ノ後ハ轉科スルコトヲ許サズ

第十六條 入學者ノ資格ハ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡滿十七年

以上ニシテ入學試業ニ合格シタルモノトス

第十七條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科ヲ試験シ及體格検査ヲ行フ

一 讀 書、國語、漢文

一 作 文、漢字、交リ文、日用文

一 動 物、學

一 植 物、學

一 物 理、學

一 化 學

一 地 理、本邦地理及外國地理

一 數 學、算術、代數、幾何、三角術

一 外 國 語、英語、英文和譯、和文、英譯、文法

一 圖 畫、自在畫

第十八條 入學志願者ハ第一號及第三號ノ書式ニ依リ各地方廳ヲ經由シ入學願書

並ニ履歷書ヲ差出スヘシ但シ東京ニ於テ受験セシトスルモノニアリテハ直ニ之

ヲ差出スコトヲ要ス

第十九條 地方ニ於テ入學試験ヲ施行スル場合ニハ第五號書式ノ検査書ニヨリ入

學志願者ノ體格ヲ檢定ス

第二十條 退學シタルモノ再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始メニ於テ原級以

下ニ編入スルコトアルヘシ

第二十一條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ其年九月十日迄ニ第四號書式ノ在學證

書ヲ差出スヘシ

第二十二條 保證人ハ二人トシ内一人ハ父兄親戚又ハ其入學者ニ學資ヲ支給スル

第三十三條 保證人死去若ハ轉住スル等ノコトアルトキハ速ニ之ヲ改メ轉居旅行改印等ノコトアルトキハ其都度直ニ届出ツベシ

第二十四條 入學ノ許可ヲ受テタルモノ第二十一條ノ成規ヲ履行セサルトキハ在學スルヲ得ス

五

第二十五條 疾病其他ノ事故ニヨリ缺課缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ通學生ハ保證人連署寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ之ヲ届出ヘシ

但疾病ニ因リ引續缺席一週間以上ニ涉ルトキハ通學生ニアリテハ本所ニ於テ適當ヲ認ムル醫師ノ診斷書寄宿生ニアリテハ本所囑托醫ノ證明書ヲ其ノ届書ニ添付スベシ

六

第二十六條 疾病其他ノ事故ニヨリ一學期以上修學スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ其學年間休學ヲ許可スルベシ

第二十七條 休學ノ許可ヲ得タルモノハ保證人連署ヲ以テ願出ツベシ其ノ疾病ニ因ルモノハ本所囑托醫又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書ヲ其ノ願書ニ添付スベシ

第二十八條 休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス

但シ一年志願兵トシテ服役滿期後直ニ就學セシメテ入ルモノハ其學年ニ於テ原級ニ編入ス

七

第二十九條 學術優等品行方正ナルモノハ特待生トナスコトアルヘシ

第三十條 特待生ニハ學費ヲ補給ス

第三十一條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠若シテ疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘ難シト認ムルモノハ其特待ヲ停止ス

第三十二條 規則若シテ命令ニ違反シ又ハ怠惰不品行其ノ他生徒タルノ本分ニ背ク行為爲スルモノハ懲罰ス

第三十三條 懲罰ヲ賜ルニ戒飭停學放所トス

第三十四條 疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ

保證人連署願出シ以テ退學ス

第三十五條 左ノ事項ニ該當スルモノハ之ヲ除名ス

一 數々遅刻缺課又ハ缺席スルモノ

二 二十日以上無届缺席スルモノ

三 一學期全ク出席セザルモノ

四 停學ノ處分三回ニ及フモノ

五 二學年間同一ノ學級ニ在リテ進級スルコトヲ得サルモノ

六 卒業ノ見込ガキモノ

十、試業進級及卒業

第三十六條 學科ノ試業ハ一學期間一回以上隨時之ヲ行フ

第三十七條 實驗及實習ハ評點ハ平生ノ成績勤怠及報告書ヲ依テ之ヲ定ム

第三十八條 試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第三十九條 各學期ノ終ニ於テ其ノ學期間ニ於テ各學科及實驗實習ノ評點ヲ計算

シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業各學科及實驗實習ノ得點トシテ之ヲ平均シ之ヲ滿

第四十條 各學年ノ終ニ於テ當該學年中ノ學期試業各學科及實驗實習ノ得點ヲ平均シ之ヲ滿

學年各科目ノ得點トナス

第四十一條 學年ノ成績各學科ノ得點五十以上實驗實習ノ得點六十以上平均點七十

以上ヲ得ルモノハ進級又ハ卒業セシム

但シ學科ノ得點ハ科目ノ限リ四十點以上五十點未満ノ得點ヲ得モ進級又ハ

卒業ヲ妨ケス

第四十二條 最終學年ノ試業ニ及第シタルモノハ卒業證書ヲ授與ス

第四十三條 在學中學業優等品行善良ナルモノハ優等卒業證書ヲ授與ス

第四十四條 南洋漁業科生徒ハ遠洋漁業練習生トシテ採用セラレタルモノ及本所

漁撈科卒業生亦志願者ニテ採擇得ルモノハ本所ニ依テ採用ス

水産講習所傳習規則

第四十五條 本科漁撈科卒業ノ資格ヲ有スル志願者ヲ員數定員ニ超過スルトキハ

試験ニ因リ許否ヲ決スルコトヲ得ル

第四十六條 遠洋漁業科ニ於テ學生徒ヲ本所實習船又ハ内國若ハ外國ノ漁船ニ乘

組マシメ漁業航海運用其他遠洋漁業ニ必要ナル技術ヲ練習セシムルコトアル

但シ時宜ニヨリ時間ヲ定メ本所ニ於テ必要ナル技術ヲ練習セシムルコトアル

ヘシ

第四十七條 外國ノ船舶ニ乗組マシムルモ又ハ特ニ練習ヲ要スルモノニ就テハ

其ノ修業年限ヲ延長スルコトアル

第四十八條 特別ノ技能アル者ニ關スル修業年限及練習ノ方法ハ必要ニ應ジ隨時

之ヲ定ム

第四十九條 疾病其ノ他止ラ得タル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ニ對シテハ期間

ヲ定メテ休學ヲ命スルコトアル

第五十條 乘船實習中ニ毎月乘船月表ヲ調製シ船長ヲ認印ヲ受ケ寄港ノ際之ヲ本

所長ニ差出スルコトアル

第五十一條 乘船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ毎日ヲ觀測操業漁況其ノ他必要ノ事

項ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ實習終了ノ後之ヲ本所長ニ差出スヘシ

但シ實習中ニ難題檢閲ニ必要ナル下ニ其ノ提示ヲ命スルコトアル

第五十二條 乘船練習セシムヘキ事項ハ隨時之ヲ定ム

第五十三條 修業ヲ完了シタル乗船月表漁撈日誌及成績ヲ考查シ證明書ヲ

交付スルシ但シ必要ニ應ジ特ニ試業ヲ行フコトアル

第五十四條 本規程中ニ定ムルモノヲ除ク外本科規定ヲ準用ス

第四章 研究科規程

第五十五條 研究科生徒ハ本科卒業生ヲ志願者ヨリ之ヲ撰拔ス

第五十六條 入學志願者ハ學年ノ始ニ於テ第三號書式ニ依リ願書ヲ差出シ許可ヲ

受クヘシ

第五十七條 學術特ニ優ル研究科生徒ニハ學費ヲ補給スルコトアル

第五十八條 研究科教官ノ指導ヲ受テ研究ニ從事スルモノトス

第五十九條 必要アルトキハ本所外適當ノ場所ニ於テ研究ニ從事セシムルコトアル

第六十條 研究ヲ結了シタル者ハ研究事項ニ付テ論文ヲ提出スヘシ

第六十一條 論文ヲ審査シ相當ノ資格アリテ認ム所トキハ證明書ヲ授與ス

第六十二條 學資ノ補給ヲ受クルモノニシテ放所ニ處セラレ又ハ自己ノ便宜ニヨ

リ中途廢學シ奉ルトキハ束給シタル學資ヲ全部又ハ一部ヲ返納セシム

第六十三條 本規程中決定スルモノ又除外ノ外ハ本科規程ヲ準用ス

第五章 現業科規程

第六十四條 入學者ハ三箇年以上水産ヲ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシ

テ年齢滿二十歳以上三歳以下ノモノトシテ要ス

第六十五條 入學志願者ハ本所規程第廿八條ニ準テ出願シ第五號書式ノ體格檢査

證書ヲ其志願書ニ添付シテ提出ス

第六十六條 入學志願者ノ員數決定員ニ超過スルニ至ルモ其經歷上地方ノ狀況ニヨ

リ許否又決議スル所トシテ決定ス

第六十七條 實技ヲ習得セタル者ハ認定書ヲ提出シ於テ志願書ニ添付ス

書ヲ授與ス

第六十八條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規定ヲ準用ス

第三號書式

第一號書式(原紙美濃紙)

入學志願書

私儀御所本科何々科現業科へ入學何々専修志願奉付御試業ノ上現業科ニハ

試業ノ上ヲ省ク御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍 某男子弟等

年 月 日 某 印

國 某 宿所(東京云々)

水産講習所傳習規則

第二號書式(用紙美濃紙)

水産講習所傳習規則

第二號書式(用紙美濃紙) 入學願書

一何々々(研究)事項(研究)事項

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記各事項ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業

某男子弟等

年月日

本願者何々 某 印

第三號書式(用紙美濃紙) 履歷書

第六學入業

履歷書

一何年何月日何地官公私立何學校ニ入り何學科何學年級修業或ハ全科卒業

一何年月日何地何某ニ從ヒ何年間何學修業用書何々(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫及學校長人證明書ヲ添ヘ實業ニ從事シタルモノハ其經歷ヲモ記入スヘシ) 賞罰

一何年何月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル事 右之通相違無之候也

年月日

何々々 某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

(印紙貼用)

在學證書

私儀今般何科へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ専心勉勵卒業ニ至ル迄猥リニ退學等致候間敷候仍テ在學證書如件

本籍族家業

某男子弟等

年月日

何々々 某 印

水産講習所傳習規則

第 四 章

宿所(東京云々)

何年何月何日生

右某今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等賜察相守ラセ且本人ニ係ル一切
ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申勿論御所御趣旨有旨身體シ平素督勵可致候仍
テ保證如斯候也

族籍職業(學生トノ關係)
保證人 何 某 印
何年何月何日生

宿所

族籍職業(學生トノ關係)
保證人 何 某 印
何年何月何日生

水産講習所長某殿

前書保證人某、當區公民ニ相違無之候也

前書保證人某、當區公民ニ相違無之候也

第五號書式(用紙美濃紙)

一 體 格 (甲、乙、丙) 最も強健ナルモノヲ甲トシ之ニ亞クモノヲ乙トシ現ニ疾患ナ
キモ身體弱ナル者ハ著シキ病歴ヲ有スルモノヲ丙トス

二 身長 (何尺寸分) (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

三 胸圍 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

四 腕圍 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

五 視力 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

六 聴力 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

七 呼吸器 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

八 皮膚 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

九 齒牙 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

十 已往病歴 (何尺寸分) 常時充盈空虚及其差

水産講習所傳習規則

問、耕穀對浦員養殖特別 公立病院病院ナキ地方ハ内務省免許醫

何 某 印

四、特殊技術員養成科規程

- 第一條 特殊技術員養成科ニ於テハ本所本科ノ學科ニ關スル特殊ノ技術ヲ修得セシム
- 第二條 前條ノ特殊技術ノ種類ハ必要ニ應シ其都度之ヲ定ム
- 第三條 特殊技術員養成科ノ修業ハ一箇年以内トシ其ノ學科課程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 募集人員及修業ノ期間並ニ募集ニ關スル必要ノ事項ハ其都度之ヲ定ム
- 第五條 特殊技術員養成科ノ生徒ハ左ノ資格者中ヨリ募集シ試業ノ上許否ヲ決ス
 - 一 水産學校本科及本所ニ於テ適當ト認ムル水産學校別科並ニ府縣立水産講習所卒業者
 - 二 甲種農學校又ハ府縣立中學校若ハ之ト同等以上ノ認定アル私立中學校卒業者
 - 三 其他本所ノ適當ト認ムル學歷ヲ有スル者
- 第六條 入學試業ノ科目ハ隨時之ヲ定ム
- 第七條 入學志願者ハ傳習規程ノ書式ニ準シタル入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ東京ニ

在リテハ直接本所ニ其ノ他ハ地方廳ヲ經テ差出スヘシ

第八條 學業及實習ハ試業ヲ行ヒ其ノ成績ニヨリテ及落ヲ判定ス

第九條 前條ニ定メタル試業ニ及第シタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第十條 本規程ニ掲記ナキ事項ニ付テハ傳習規程ヲ準用ス

附 則

第十一條 本規程ハ明治四十三年四月ヨリ施行ス

第十二條 製鹽技術員養成科規程ハ明治四十三年三月限り之ヲ廢止ス

明治四十三年ヨリ施行スル製鹽科ノ修業期間ハ一年トシ其學科課程左ノ如シ

修業規程

附表

製鹽科		學科目	科目	週時	自	至	週時	自	至
化學	分拆及鑑査法	學	三	二	四月	七月	三	九月	十一月
氣象	定性及定量法	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
物理	本邦製鹽法	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
數理	代數、幾何	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
簿記	簿記	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
法規	法規	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
外國語	英語	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
化學及分析	定性分析	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
製鹽	鑑定分拆	學	二	二	四月	七月	二	九月	十一月
夏季休業中	夏季休業中	課	二	二	四月	七月	二	九月	十一月

五、實習規程

- 第一條 實習生本所及實習場實習船又本所指定之場所若ハ船舶ニ於テ實習ニ従事セシメ給フ事トシ其ノ規程ハ本所長ノ裁量ニ任セラルベシ
 - 第二條 實習ノ事項及期限ハ實習課程ニ準據シ之ヲ定ム
 - 第三條 實習生爲メ出張ヲ命ジタル時其ノ往復ノ旅費及支給金其ノ出費ニ出ス
 - 第四條 實習ニ付キハ適當教員又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クベシ
 - 第五條 各組ノ組長副組長各一人ヲ選ビ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ヲ任セ給フ事トシ其ノ職務ハ本所長ノ裁量ニ任セラルベシ
 - 第六條 實習中ノ規定ノ實習服ヲ着用スルモノニ違フ者ハ本所長ノ裁量ニ任セラルベシ
 - 第七條 實習中ノ事項ニ付キハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ適當教員ニ出スベシ
- 申但遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第五十條及第五十一條ニ依テ實習中ノ諸般ノ事項ハ該所長ノ裁量ニ任セラルベシ
- 生徒心得

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ズ

六、生徒心得

- 第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ生徒ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アル可カラス
- 第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一ヶ月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ
- 第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時
- 第四條 控所ノ外晝舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス
- 第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舎ニ出入スヘカラス
- 第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムベキカ故ニ常ニ揭示ニ注意スヘシ
- 第七條 學術研究又ハ實習ノ爲ノ出張ヲ命ジ知ル下キハ出發歸所共ニ届出ヘシ

七、寄宿舎規程

- 第一條 寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ
- 第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設テ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ
- 第三條 寄宿舎ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ
- 第四條 毎朝夕所定ノ時間或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受ク
- 第五條 寄宿生ハ左ノ時間外ハ外出スルヲ許サズ
 - 一、平日ハ終業時後午後九時迄止曜日ハ午後十時迄
 - 二、休業日ハ午前點檢後午後十時迄

但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

- 第六條 外泊又ハ時期内ニ歸舎シ難キ事情アリモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出シ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 許可ナク歸舎ノ時限ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出シ其處分ヲ待ツヘシ
- 第八條 入舍又ハ退舍時ニ於テ規程ニ規定シ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ツ

寄宿舎規程

第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部长各一人ヲ置キ

寄宿舎生徒取締ヲ指揮ニ從ヒ部内一般取締任ズルヲ宿舎人並ニ之ヲ司ル

第十條 物品ヲ毀損若シテ亡失タルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セ

ルベシ

第十一條 寄宿舎食費等ハ毎月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ

經過スルモ拂入ルベシトシ其情狀ニヨリ退舎ヲ命ズルハ其ノ時ニ於テ之ヲ

第十二條 外來人トシテ面會ハ應接所ニ於テスヘシ

第十三條 檢査ハ於テ和服ヲ用ウルヲ得

第十四條 圖書保管及ヒ借覽規程

第十五條 圖書保管規程

第一條 日本所製圖書ハ圖書掛圖書取扱主任於テ之ヲ保管ス

第二條 圖書ハ各部門掛分チ番號ヲ附シ點檢ヲ便ニ供スヘシ

第三條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ

第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スルニ依リ之ヲ管理ス

第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之レカ點檢ヲ爲スヘシ

第六條 點檢ノ際圖書ハ補綴癸癸曝涼ヲ爲シ之ヲ修補シ

第七條 寄贈關係ノ圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモ

之ヲ定メ且謝狀ヲ送ルベシ其手續ヲ爲スヘシ

第八條 雜誌及報告書類ヲ保存スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ

第九條 各部科掛分チ平常備置圖書ハ圖書掛部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシメ

第十條 圖書掛分チ借用證書ヲ差出スルハ圖書掛部長又ハ主任ヲシテ之ヲ

第十一條 前條備付チ圖書ハ時々圖書取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ

第十二條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務係ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲ス

第十三條 圖書掛分チ圖書ハ圖書掛分チ保管職員ニ貸付スル場合ハ圖書

借覽規程ニ從テ其手續ヲ爲ス

第十四條 圖書ハ本館圖書借覽規程ニ從テ之ヲ借覽ス

第一條 圖書ハ本所職員及囑托員ニ限リ借覽ヲ許ス

但シ職員囑托員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム

第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名部門番號冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺

印ス上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル既定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ

差出スヘシ

第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各

科掛主任ノ承諾ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾

及檢閱ヲ受クヘシ

第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置タベキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出

シ六ヶ月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サズ

但シ特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限りニテス

第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部科掛備付ケノ圖書ヲ返納セシ

ムルコトヲ得ル

第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サズ

但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 他處ヨリ圖書借用ヲ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許否

ヲ定ムヘシ

第九條 他處ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上

借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ

以テ償ハシメ若ハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果タササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サズ

第三節 實驗實習

一 本所實習

本所内本科生徒ハ實習ニ漁撈種ニ於テハ網具及釣具ノ構成索具及帆ノ製作漁船ノ

製圖、漁船(船體)ノ運用、天測、實習等ヲ課シ製造種ニ於テハ食用、品工用品、藥用品等ノ製造、冷藏機ノ使用及冷藏方法并ニ定性定量分析等ノ實習及實驗ヲナサシメ養殖科ニ於テハ解剖及發生實驗、浮游生物ノ採取及實驗並ニ海苔及貝類養殖方法等ノ實習ヲナサシム

二、所外實習

本科第三學年ニ於テハ所内實習ノ外技術ヲ練磨セシムル爲メ別ニ設ケタル實習實場又ハ實業家ノ工場或ハ漁船等ニ於テ實習ニ從事セシメタル其項目左ノ如シ

(一) 漁撈科

假實習場 千葉縣下館山 雲鷹丸 隼丸 北水丸

實習船

一、網具製作並ニ製網設計ノ圖ニシテ家ノ圖書積書館ニ閱覽室ニ設出マシマス

一、漁船及「ボート」運用、航海術實習ノ科目

一、網漁業、揚繰網漁業、流網漁業、刺網漁業、棒受網漁業、手繰網漁業、打瀬網漁業等
 二、釣漁業、鮎、鱈、鱒、柔魚、鱈等ノ延繩及手釣漁業
 三、氣象觀測實習
 四、漁場調査
 五、漁業經營

其他所外ニ於テ實習セシメタル事項左ノ如シ

- 一、明治四十三年七月五日ヨリ十月廿五日迄實習船雲鷹丸ヲ乘組金華山沖合ニ於テ捕鯨ヲ行ハシク海ニ於テ鱈漁業ヲ實習ナサシメタル
- 一、明治四十三年十一月廿五日ヨリ四十四年三月廿五日迄實習船雲鷹丸ヲ乘組シタル群島沖カシ方面ニ於テ鱈、飛魚、鯉其他雜漁業ヲ實習シナサシメタル
- 一、明治四十五年四月五日ヨリ六月三十日迄各種漁業船ヲ分乘實習セシムルニ必要ヲ認メテ汽船、漁船、及帆船並ニ汽船流網並ニ鯉、鱈等ノ漁業船ヲ乘組實習ナサシメタル

一、漁撈科第三學年生徒豫備實習トシテ明治四十二年七月八日ヨリ九月五日迄房州館山假實習場ニ於テ漁船ノ運用各種漁具製作各種漁業氣象觀測漁場觀測等ヲ實習ニ從事セシメタリ又同生徒ハ漁業地實際ノ狀況ヲ豫知セシメ置クニ必要ヲ認メ明治四十五年三月三十日ヨリ四月十五日迄生徒及甲乙兩組ニ區分シ甲組宮城縣下ヲ中心トシ「マダケ」漁業、鮫延繩漁業、鯉網漁業、鯉釣漁業、鮎大黒網及鮎延繩等乙組ハ静岡愛知兩縣下主要ノ漁業地ニ出張セシメ打瀬網及ビーム等ノ漁業、揚繰網漁業、手繰網漁業、鯛釣漁業、鯉釣漁業等ノ漁業方法漁業ノ組織經營方法等ヲ就キ調査セシメタリ

(二) 製造科

製造科ハ實習ハ本所内ノ實習場ニ於テ各種機械ノ取扱並ニ冷藏機乾燥機等ノ使用法其他各種實習ニ從事セシムト雖トモ原料品等ノ關係ニヨリ小田原實習場ニ於テ實習應シメ或該實習場ニ出張候節多ク實習ヲ完了セシメタリ其實習項目及方法ハ左列如シ

一、實習場 一、神奈川縣小田原町

實習項目

- 一、食料品 罐詰及其真空密封方法、煮乾品、素乾品、鹽藏品、鹽乾品及節類、燻製品、蒲鉾、醋漬品及寒天並ニ乾燥機ノ使用等
 - 一、肥料 搾粕、乾鰯、荒粕、骨粉等
 - 一、工用品 油燻、膠及其材料採集並ニ檢定方法、鞣革及其材料採集等
 - 一、藥用品 沃度、肝油類
- 其他所外ニ於テ實習セシメタル狀況左ノ如シ
- 一、明治四十二年七月八日ヨリ九月七日迄小田原實習場ニ於テ鯉節其他節類鹽藏及鹽乾魚類製品煮乾品並ニ罐詰等ノ製造實習ニ從事セシメタリ
 - 一、明治四十二年九月十日ヨリ同二十三日迄千葉縣下津田沼製鹽試驗場ニ於テ製鹽法ノ實習ヲナサシメタリ
 - 一、明治四十二年十月一日ヨリ同二十五日迄生徒各地實業者經營ノ方法並ニ製造狀態等ニ就キ單獨調査ヲナサシムルノ必要ヲ認メ調査ノ項目方法等ヲ定メ場所ヲ指定シ生徒ヲ二分シテ甲組ハ罐詰、鹽乾魚、鯉節其他節類ノ製造ニ就キ静岡

愛知三重ノ三縣下へ乙組ハ、鯉節其他節類鹽乾魚類沃度製鹽等ノ製造方法ニ就
キ宮城福島兩縣下へ出張ヲ命シ實際ニ當リテ其製造方法ヲ調査セシメタリ

一、明治四十二年十一月一日ヨリ十二月二十五日迄小田原實習場ニ於テ罐詰及鹽
乾並ニ鹽藏魚類素乾素乾品等ノ製造方法ノ實習ヲナサシメタリ

一、明治四十三年三月十七日横濱魚油會社ニ出張セシメ魚油蠟ノ製造方法ニ就キ
其實況ヲ見學調査セシメタリ

一、明治四十三年三月十九日ヨリ五月一日迄北海道小樽地方ニ出張ヲ命シ鯉ノ各
種製造肥料並ニ魚油ノ採製鑄及鍊ノ鹽藏法等ニ就キ實習セシメタリ

其他東京附近ノ各製造場機械工場等ニ就キ實地ノ視察調査ヲナサシメタリ

(三) 養殖料

第三學年生ハ本所内ニ於テ各自ノ定メタル項目ニ就キ之カ研究ニ從事セシメ或ハ
冬木町養魚實習場ニ於テ實習セシムルト雖モ必要ニ應シ地方ニ出張實習セシメタ
ルモノ多シ其項目左ノ如シ

實習場

東京市深川區冬木町(淡水養殖)
千葉縣下館山灣高島(鹹水養殖)
同 八幡町 (牡蠣養殖)

實習科目

- 一、淡水養殖 (鯉、鰻、鱈、金魚ノ育養)
- 一、鹹水養殖 (鰹、黑鯛、鮮、牡蠣、海苔ノ育養)
- 一、鮮剖及發生實驗

其他所外ニ於テ實習セシメタル事項左ノ如シ

一、明治四十二年七月十日ヨリ同廿五日迄千葉縣下八幡實習場ニ於テ牡蠣ノ發生
實驗及養成法ニ就キ實地指導ヲナシタリ

一、明治四十二年八月一日ヨリ八月十七日迄牡蠣、伏老、煙等ノ養殖法ニ就キ其調査
並ニ實習スヘキ項目ヲ定メ方法ヲ指定シテ岡山廣嶋兩縣下へ出張セシメ岡山
縣兒島灣ニ於テハ伏老、煙ノ養殖法ヲ廣島縣下仁保島海田市、草津等ノ各地ニ於
テハ牡蠣ノ養殖方法ヲ調査並ニ實習セシメタリ

實習

一、明治四十二年十月十五日ヨリ同廿一日迄長野縣下へ出張ヲ命シ鯉ノ養殖法ニ就キ見學並ニ調査ヲナサシメタリ

一、明治四十二年十二月六日ヨリ同十九日迄新潟縣下村上へ出張ヲ命シ鮭鱒養殖法ニ就キ實習ヲナサシメタリ

一、明治四十二年一月二十九日ヨリ三十日迄及其後二回千葉縣下船橋及浦安地方ニ出張ヲ命シ海苔ノ養殖法ニ就キ實習ヲナサシメタリ

一、明治四十三年二月神奈川縣金澤本所養蠶場ニ出張ヲ命シ「シレール」式養蠶ノ實習ヲナサシメタリ

一、明治四十三年五月十八日ヨリ六月六日迄千葉縣下高島本所實驗場へ出張ヲ命シ鹹水魚人工養殖法並ニ浮游生物學實驗及海藻蕃殖法等ニ就キ實地指導實驗ヲナサシメタリ

又本學年ニ於テハ生徒各自ノ志望ニ依リ項目ヲ定メ實習ノ間其研究ニ從事セシメタリ

第三章 試驗部

第一節 職員

技師

部長

職員

農商務技師

理學士 兼 吉岡 哲太郎

兼 北原 多作

理學士 兼 伊谷 以知二郎

兼 妹尾 秀實

兼 川合 角也

農商務技師

兼 下田 奎一

工學士 兼 岡田 少三郎

兼 黑田 九萬男

兼 小瀬 次郎

農商務技師

教授

技手

理學士 兼

岡村金太郎
崎田弘

六十二

在外研究生(在佛國)
在外研究生(在獨逸)

田和駒吉
越田德次郎
關根磯吉
兼 山田德助
兼 鍋島能道
兼 菊地健
兼 益滿行綱
兼 鎌田武造
小野辰次郎
丸川久俊

助教

書記

囑託

兼 野元俊一
兼 木村金太郎
兼技手 大橋元次郎

大藏技師
東京高等工業學校教授

農學士 西村寅三
(在官者以外、就任順)

工學士 市野金一郎
谷中知信
淺井勝次郎
理學士 柳直勝
理學士 羽原又吉

水産講習所試験規程

六十三

第二節 水産講習所試験規程

明治四十一年二月改正
同 四十三年一月改正

第一條 試験部ニ於テハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ水産生物漁撈養殖化學製造漁船機械ニ關スル事項ニ付キ試験及調査ヲナス

第二條 地方水産試験場水産講習所其他一般當業者ヨリ試験又ハ鑑定ノ依頼ヲ受ケタルトキ其事項ニシテ本所ノ業務ニ關係ヲ有スルモノニ限り主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得

第三條 試験成績ハ各擔當員ニ於テ結了後三ヶ月以内ニ報告書ヲ編纂シ試験部長ヲ經テ所長ヘ差出スヘシ

二箇年以上ニ涉ルモノハ毎年十二月二十日迄ニ施行シタル手續及成績ヲ報告スヘシ

第四條 所長ハ試験部長ヲシテ試験成績中重要ナルモノヲ考査シ之レガ刊行ノ手續ヲ爲サシム

第五條 試験部ニ於テ各試験及調査ニ要スル經費内譯簿ヲ備へ之ヲ整理スルシ

第三節 事業

本所試験部ニ於テ前年度施行セシ試験並ニ調査事項及今四十三年度實行中ノモノ左ノ如シ

四十二年度試験事項

一 綿網糸燃方優劣試験

網糸ノ燃方ハ張力持久力等ニ及ボス影響尠カラサルヲ以テ本試験ヲ施行セリ其主要點ハ上燃下燃ノ關係左右燃ノ優劣ニ于テ燃下ニ于テ燃方優劣等ニシテ其結果ハ上燃下燃相平均セルモ最モ強ク又紡績糸ノ左燃方原料下燃セルモ右燃方原料右燃方セルモ左燃方原料セルモ其張力著ク減スル等事實

一 綿網糸燃方優劣試験

一 日本海漁業試驗

日本海ニ於テハ夏期沿岸漁業ノ外遠洋漁業ヲ企ツルモノ殆ト稀ナリ依テ本所ハ相當ノ設備ヲ有スルニ於テハ夏ヨリ引續キ秋冬ニ候ト雖モ安全ニ遠洋ニ出漁シ得ルコトヲ示サシカ爲メ隼丸ヲ同方面ニ廻航セシメ漁業試驗ニ着手セリ

一 鱈肝油採製試驗

鱈肝油及鱈油採製法ノ改良ヲ圖リ四十一年北海道北見國利尻島ニ於テ蘇國式ニ則リ肝油ノ採製ヲ試ミ良好ノ成績ヲ得タルモ尙ホ講究ヲ要スル點アリタルヲ以テ本年更ニ禮文島ニ於テ之カ試驗ヲ爲セリ其結果極テ良好ニシテ油質ノ佳良採油量ノ増加及ヒ工程ノ簡易ナル等頗ル舊法ニ優ルモノアルヲ認めタリ試驗報告ヲ刊行セリ

一 魚類鹽藏試驗

魚類鹽藏ニ使用スル鹽量ノ適否用量ノ標準ヲ明テ極重要ノ事項ニ依テ四十一年度ヨリ專賣局ト協同試驗ニ着手シ「マグネシウム」及ヒ「カルシウム」鹽類ノ著シク有害ナルモノハ既ニ確定セリ然レテ未ダ該鹽類ノ有害分量ノ程度ヲ研究

一 アンチヨビ製造試驗

「アンチヨビ」ハ歐米人ノ嗜好スル處ニシテ從テ其價格頗ル貴シ然ルニ本邦ニアリテハ鯉ノ産額饒多ニシテ至廉ナルヲ以テ之レガ輸出額亦シカ爲メ樽詰罐詰ノ二種ヲ試製セリ

一 經節製造改良試驗

經節製造法ノ改良ヲ圖リ前年度ニ於テ先ツ原料ヲ迅速ニ處理スル方法ヲ講スル

一 眞空貯藏試驗

本試驗ハ米國市我古市アルグライトネール會社ノ專賣ニ係ル眞空密封機 Vacuum Sealing Machine)ヲ應用シ食品ヲ貯藏スルニ在リ據付後試運轉ヲ兼テ兩三回ノ試驗ニ過キササルヲ以テ未ダ完全ノ成績ヲ報告スルニ至ラカレハ加熱前ニ罐詰ノ排氣ヲ行ヒ又ハ調味品ヲ罐又ハ瓶中ニ貯藏スル點ニ於テ頗ル有益ノ成績ヲ擧ゲ得ベシト信ヒラル

一 海獸魚皮製革試驗

陸上動物ノ皮革ハ年々其産額ヲ減シ價格彌々騰貴ス若シ海獸其他魚類ノ皮革ニシテ適當ノ用途ヲ發見セハ其利益尠ナラサルベシ依テ本所ハ數年來之レカ製造法ニ就キ試驗研究スル處アリシカ本年度ハ諸種ノ製革機械ヲ購入シ試驗セシ結果稍ヤ良品ヲ製出スルニ至レリ

一 蟹蝦變色防止誠驗

蟹蝦類罐詰ハ時ヲ經ルニ從ヒ黑色ヲ帶ヒ品位ヲ毀損スルヲ以テ之レカ防止方法ニ就キ試驗ヲ開始セリ

一 魚鱗魚皮水膠製造試驗

魚鱗魚皮水膠ハ寫真版「フイルム」及膠着用ニ使用セラレ歐米ヨリ輸入スルモノ少ナカラスシテ其價亦不廉ナルモノナリ然ルニ本邦ハ之レ等原料豊富ニシテ其用途ニ苦ミ多クハ肥料ニ供セラレ、ニ過キス依テ本所ハ之レカ試製ニ着手シ稍ヤ良結果ヲ得タルヲ以テ製版用其他固形膠代用ニ試ミ各好成绩ヲ得タリ(試驗報告ヲ刊行セリ)

一 オリーブ油檢定試驗

油漬罐詰ニ使用スル「オリーブ」油ハ善惡ニ由リ製品ノ良否ヲ生スルヲ以テ豫メ適否ヲ鑑別スル必要アリ依テ之レカ標準ヲ示シテ各處ノ各種オリーブ油ニ就キ檢定試驗ヲ行ヘリ

一 貝殼彫刻試驗

貝殼自然ニ有スル色層ヲ利用シ彫刻ヲ試ミ前年度先ツ手彫製作ニ着手シ稍其成績ヲ得タルヲ以テ更ニ機械彫ノ試驗ヲ行ハンカ爲メ諸機械ヲ設備セリ

一 淡水魚蓄養試驗

冬木町試驗池ニ於テ日本種鯉獨乙種鯉鰻等ヲ蓄養シ高島實驗場ニ於テハ鰻及鯛等ノ蓄養試驗ヲ行ヘリ(鯛蓄養試驗報告ハ刊行セリ)

一 獨逸種鯉日本種鯉成長比較試驗

獨逸種鯉ト本邦種鯉トノ成長比較試驗ノ結果獨逸種鯉ハ本邦種鯉ニ比シ其成長度ノ速カナルコトハ既ニ前年來ノ試驗ニヨリ明カナル處ナルモ尙ホ研究ヲ要スル點アリ繼續試驗セリ

一 鱒池中養殖試驗

本邦ニ於テハ未タ鱒池中養殖ヲ企ツルモノ罕ナリト雖モ歐米ニアリテハ盛ニ之レカ養殖行ハレ其利益モ亦尠少ナラサルモノアリ依テ本所ハ之レカ試驗ヲ行ハシムルカ爲メ先ツ豫備試驗トシテ本年度群馬縣皆沼及滋賀縣琵琶湖ニ於テ同魚ノ産卵回数試驗ヲ施行セリ

二 牡蠣種改良試驗

牡蠣ハ歐米人ノ共ニ嗜好スル處ノモノナルヲ以テ之レカ輸出ヲ計ラシカ爲メ牡蠣ノ形態改良ヲ企テ神奈川縣金澤ニ於テ種付場育養場整形場ヲ設置シ試驗ヲ開始セリ

三 海苔蕃殖試驗

海苔蕃殖ノ密度標準ヲ示シシカ爲メ昨年度千葉縣五井地先ニ於テ試驗ニ着手シ本年度尙ホ繼續施行セリ本試驗ノ始メハ一兩年ノ成績ニ依リ速カニ詳密ナル判定ヲ下シ難キ處ナリト雖モ從來ハ建設費數モ幾分節減スル方寧ロ收穫ヲ増加スルノ傾向アルヲ認メタリ

四 四十三年度試驗事項

- 一 鱒流網漁業試驗
- 一 日本海漁業試驗
- 一 鱒巾着網試驗
- 一 鮭沖取試驗
- 一 網糸防腐効力比較試驗
- 一 蟹蝦變色防止試驗
- 一 鱒鹽藏試驗
- 一 鹽銷輸出試驗
- 一 真空貯藏試驗
- 一 アンチヨビ製造試驗
- 一 經節製造改良試驗
- 一 漁業用鹽試驗
- 一 牡蠣種輸出試驗

水産講習所試驗規程

- 一 海獸魚皮製革試験
- 一 魚皮魚鱗水膠製造試験
- 一 海豚利用試験
- 一 貝殻利用試験
- 一 淡水魚著養試験
- 一 鹹水魚著養試験
- 一 牡蠣種改良試験
- 一 獨乙鯉、日本鯉、ノ成長比較試験
- 一 鱒池中養殖試験
- 一 海苔養殖試験
- 一 以上、前年度若クハ前々年度ヨリ繼續施行ノモノナリ
- 一 鱈及大鯨漁業試験
- 一 鱈、カタクダシ(カタクダシ)製浮子試験
- 一 漁船ノ研究

漁船ノ研究

蟹罐詰製造試験

鮭罐詰及イクラ製造試験

水産生物調査

東京灣調査

蝦ノ調査及蕃殖試験

石花菜蕃殖試験

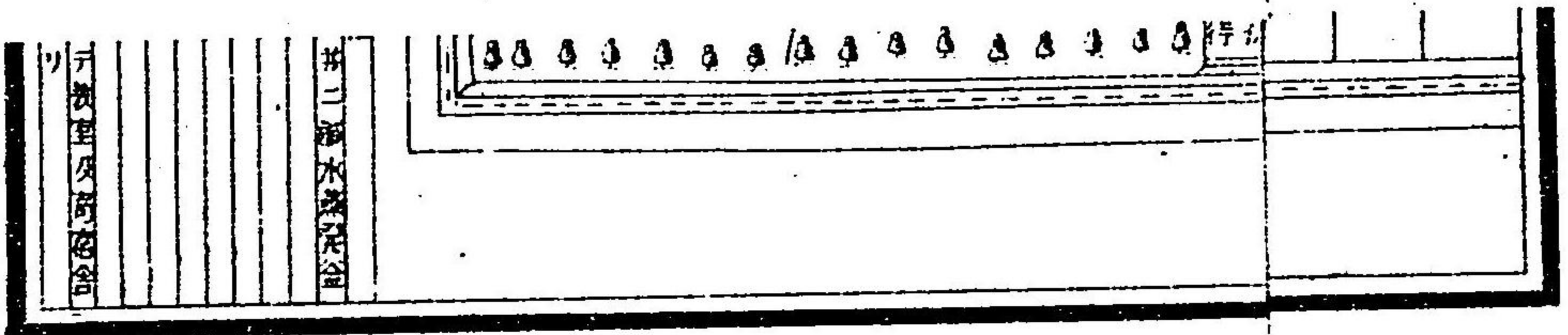
活洲試験

第四章 本所敷地並建物

明治三十年創設ノ當時ニ於テハ舊水産傳習所ノ建物ヲ充用シタリシモ狹隘ニシテ完全ノ設備ヲナスコトヲ得ス依テ明治三十二年其新營ヲ計畫シ位置ヲ海邊ニ撰ムノ必要アルヲ以テ地ヲ東京市深川區越中島ニトシ同年四月新營ニ着手セシモ土地埋立ノ爲メ工事ノ進捗甚タ遅ク翌三十五年三月即チ滿四ヶ年ニシテ完成セリ其後冷蔵庫船圍場製革實習場等ノ増築ヲナシ明治四十二年ニハ圖書及標本室ヲ新營セリ敷地面積ハ一萬四百三十二坪餘ニシテ内繋船場壹千九百貳坪餘アリ家屋ノ總坪數ハ貳千五百九十五坪餘ニシテ教室寄宿舎圖書及標本室其他ノ配置實驗室實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

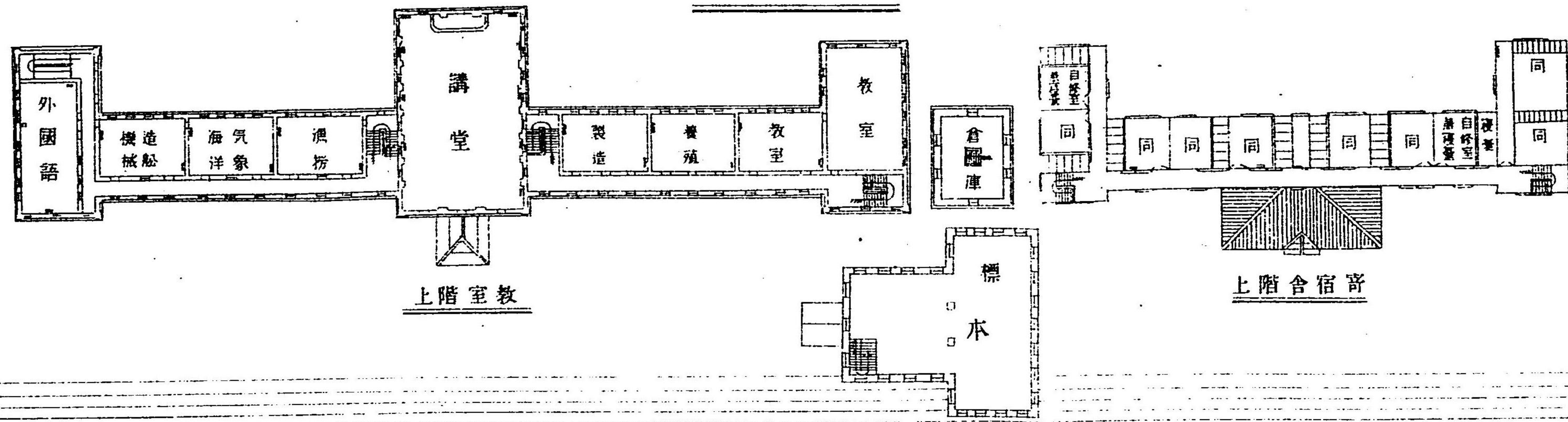
一、費 舍

本所ノ建築ハ勉メテ外形ノ修飾ヲ避ケ實用ト堅牢トニ重キヲ置キ通風採光ニ留意セシハ勿論教室ノ配置教具及實驗並ニ實習器具機械ノ排列等ニ於テモ事業ノ状態ト教育及ヒ衛生上ノ論理トニ基キ之ヲ計營セリ

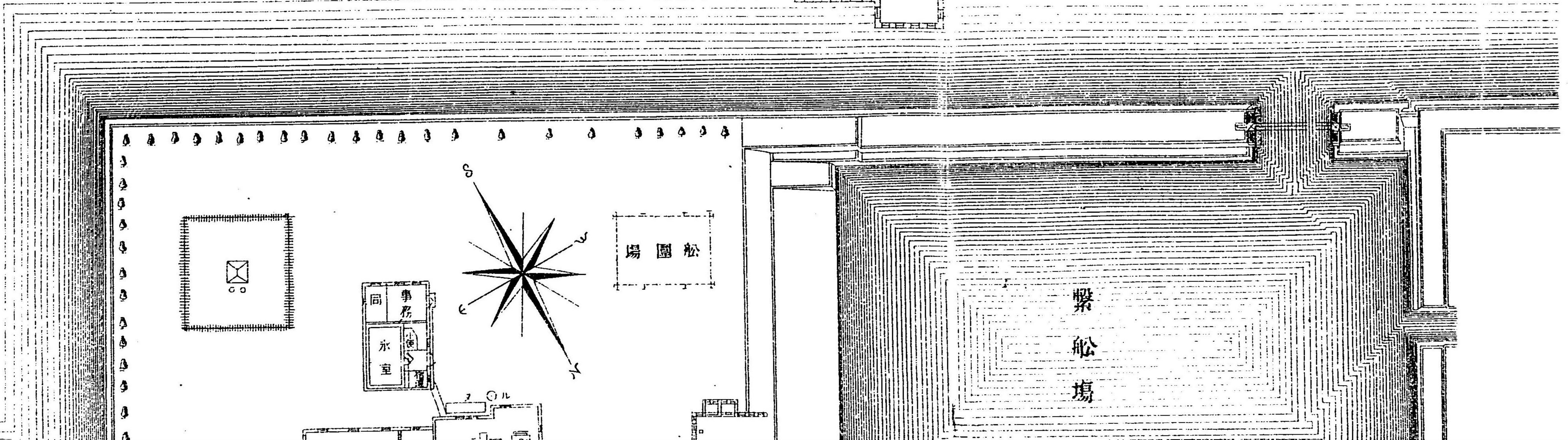


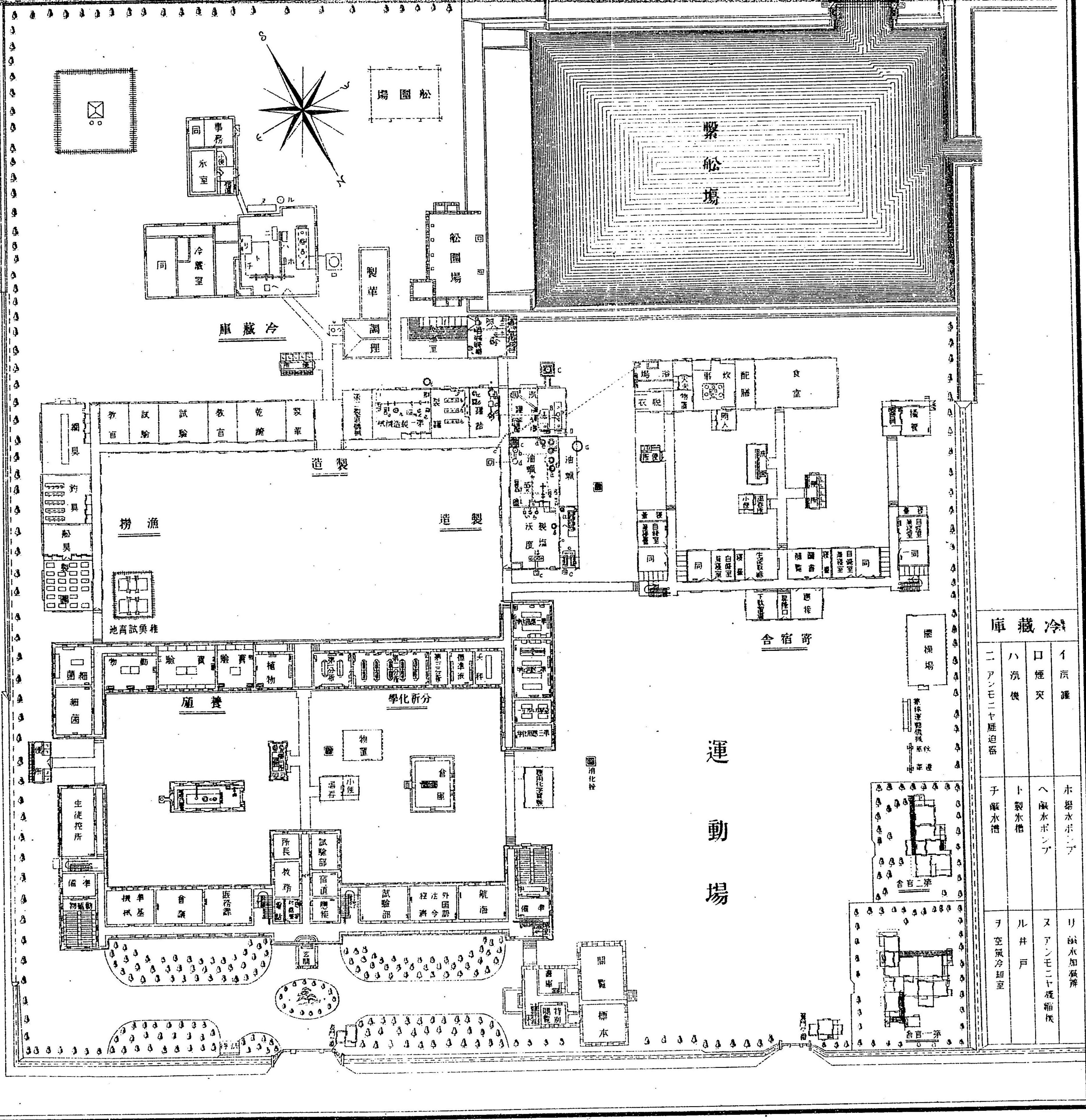
水產講習所 本所

縮尺八百分之壹



構内	壹万四百三拾二坪五
内 繫船場	壹千九百七拾二坪五
總建物	貳千六百八拾六坪





K L I H G F E D C B A
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100
 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200
 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300
 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400
 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500

冷蔵庫		
1 汽罐	4 製水ポンプ	11 海水加温機
2 アンモニア压缩机	5 製水ポンプ	12 アンモニア压缩机
3 汽機	6 製水ポンプ	13 空気冷却室
	7 製水ポンプ	
	8 製水ポンプ	
	9 製水ポンプ	
	10 製水ポンプ	

本館ハ二階建ニシテ教室事務室講堂ノ三ヨリ成リ教室ハ一室能ク六十人ヲ容ル、
コトヲ得其數十四室アリ其他物理化學ノ特別教室ヲ設ケ又其一部ヲ教官室及準基
機械室等ニ充テ別ニ土中室ニテ有テ講堂ハ面積七十七坪ニシテ、鑿影奉掲ノ
裝置ヲナス又各室ニハ暖房放熱器ヲ備ヘ冬季ニ雖モ常ニ一定ノ溫度ヲ保タシムル
ノ裝置トナス

中央ノ一棟ハ平家造ニシテ實驗室ニ充ツ其半部ハ養殖並ニ細菌學ニ關スル實驗及
實習ニ供シ他ノ半部ハ製造化學分析化學及化學實驗室トシ各瓦斯水道水ヲ引用シ
テ其作業ニ便ナラシム

後部ニアル一棟ノ實習場ハ平家造ニシテ漁撈製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室
ニ充テ網具釣具船具等ノ設計製作修補ノ場所トナシ一隅ヲ製圖室トス又他ノ一部
ヲ製造ノ實習室トシ沃度製鹽油蠟罐詰及汽罐室トシ煮熟煎熬等溫熱ヲ要スルモノ
ハ汽罐中ノ蒸氣ノ供給ニヨリ動力ヲ要スルモノハ汽關室ニ於テ發生セシムル電氣
ヲ用ヒ又瓦斯水道水ノ供給ニヨリテ其作業ニ便ナラシム又別ニ第五回内國勸業博
覽會ニ在リシ冷藏庫ヲ移築シテ魚肉冷藏ノ方法ヲ實習セシムル所トシ其傍ニハ製

革實習場及調理場ヲ設ク

寄宿舎ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼ネ室ノ一部ヲ自修ニ他ノ一部ヲ寢室ニ充ツ寢臺ハ床面上二尺五寸ノ高サニシテ上ニ藁布団ヲ敷キ下ヲ用具入トシテ前面ニ戸ヲ設ケ各自鍵ヲ用ヒテ閉鎖スルコトヲ得セシム又自修ノ爲メニハ中央ニ二人向合ノ卓子三個ヲ併列シ其側面ニ書籍ヲ容ル可キ棚ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス外ニ一ノ會堂ヲ設ケ生徒ノ集會ニ便ニシ又學友會圖書室ヲ本舎内ニ設ク各室ニ暖房及ヒ電燈ヲ配置シ水道水ヲ引用ス其他攝養室小使室洗面所食堂浴室等ヲ設ク浴室ニハ汽罐ヨリ蒸氣ヲ引用シテ日中作業ニ使用セシ蒸氣ノ餘熱ヲ供給セリ

繫船場ハ敷地ノ一隅ヲ區劃シ水開ヲ設ケテ外海トノ交通ヲ遮リ練習用ノ端艇及漁艇ヲ繫留スル所トナス

運動場ハ寄宿舎ノ前面一千五百七十五坪餘ノ面積ヲ以テ之ニ充テ砂礫ヲ以テ地盛ヲナシ雨水ノ溜滯スルコトナカラシム場内ニハ鞦韆震動橫木鐵棒高手摺等ヲ設ケテ本所學生ニ必要ナル特殊ノ運動ヲナサシム

暖房ハ米國「ウエブスター」式ヲ採用シ各室ニ設備セル放熱機ニヨリテ室内ヲ暖メ「ボ

ンプ」ノ作用ニヨリテ凝結水ヲ回收スルノ趣向トシニケ所ノ汽罐ニヨリ一ハ教室及實驗室等主トシテ晝間使用スル場所ニ溫熱ヲ供給シ其汽罐室ヲ本館ノ中央ニ設ク一ハ夜間使用スル寄宿舎ニ供給スルモノニシテ晝間ノ實習ニ使用シタル蒸氣ノ餘力ヲ以テ之ヲ供給ス

電燈及ヒ原動力ハ製造ノ作業ニ要スル蒸氣殺菌溫熱ノ供給及暖房等ノ爲メ使用セ

ル汽罐ノ蒸氣ニヨリテ同一ノ汽罐室ニ備ヘタル發電機ヲ回轉シ又更ニ蓄電池ヲ設ケテ常ニ剩餘ノ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ寄宿舎及其他ノ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動力トシテ隨所ニ其動力ヲ應用シ又將來電氣ノ作用ニヨリテ成功スヘキ漂白分解等ノ事業ニモ應用センコトヲ期ス故ニ蒸氣及ヒ電氣ハ極メテ經濟的ニ之ヲ使用セリ

構内ノ植樹ハ其場所ニ依リ風防火防日除波除等ノ目的ヲ以テ最モ海風ニ堪ユルモノ又ハ堤防ノ堅固ヲ補クルモノ等ヲ撰ビタリ故ニ一樹一卉ト雖モ苟モ植ヘタルモノナシ

二、實習ニ關スル設備

本所ハ其業態ニ依リ東京ニ於テノ「ミ」實習セシムヘカラサルモノ多キヲ以テ各科其

目的ノ異ナルニ從ヒ特殊ノ設備ヲナセリ

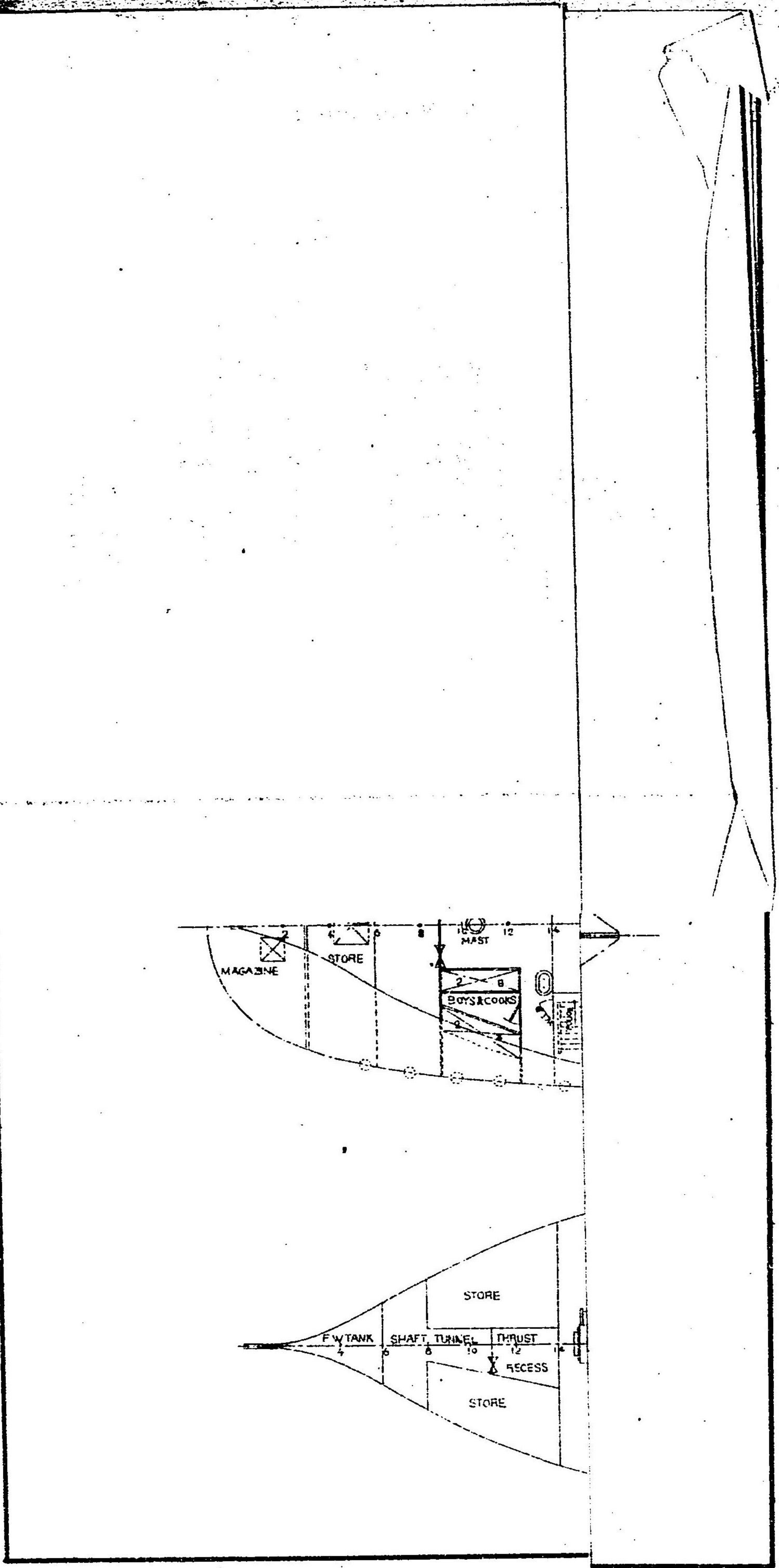
一 漁撈科

實習船雲鷹丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「バーク」型帆船ニシテ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助汽關ヲ備フ

船尾樓ハ士官室及士官會食室及配膳室ヨリ成リ船尾突出部ニハ腰掛及圖書箱ヲ設ク學生室ハ第二甲板上汽罐室圍壁ノ兩側ニ在リ四室四十人ヲ容ルヘク其前部ニ學生會食兼讀書室アリ

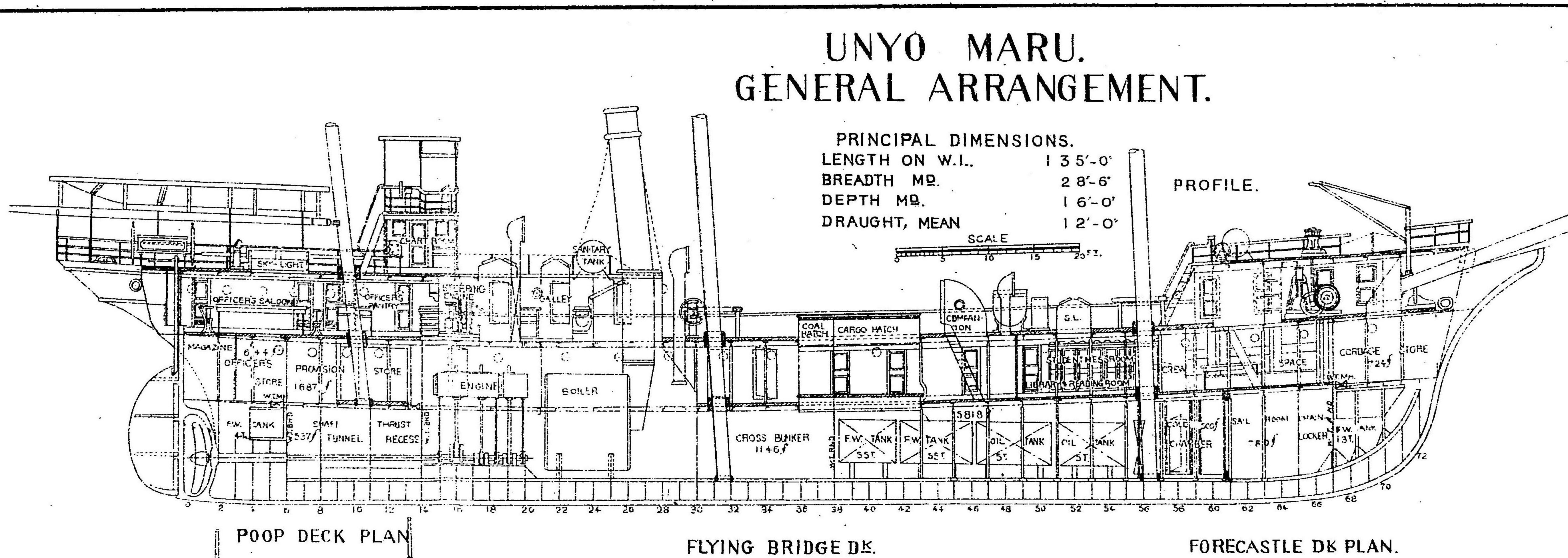
船首樓内ニハ蒸汽揚鉤機ヲ備ヘ其兩舷ニ水夫長室學生及水火夫ヲ浴室便所冷藏機室等アリ第二甲板船首部ノ支水隔壁ノ後部ハ水火夫室ニシテ二十二人ヲ容ルベシ機關室ニハ三聯成表面冷汽機一臺ト長九呎六吋徑十呎ノ主汽罐一個及「ドンキヤ」汽罐一個ヲ備ヘ主汽罐林止中緩房其他甲板上諸機械ヲ運轉用ニ供シ別ニ諸室及ビ艙内其他ヲ燈火用トシテ發電機一臺ヲ備フ又汽機室内ニハ五噸蒸發機及三百「ガロン」蒸溜器ヲ備ヘテ海水ヨリ所用ヲ淡水ヲ製スルノ用ニ供セリ

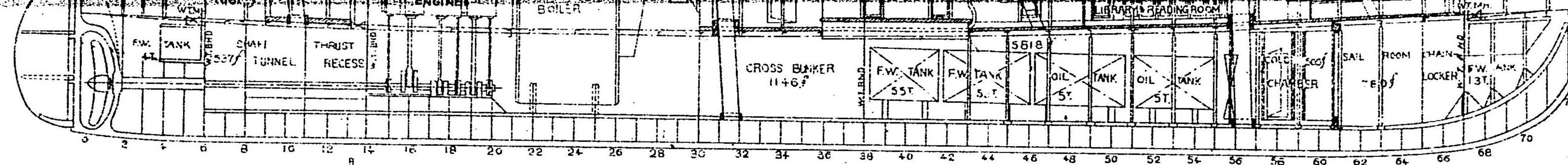


UNYO MARU. GENERAL ARRANGEMENT.

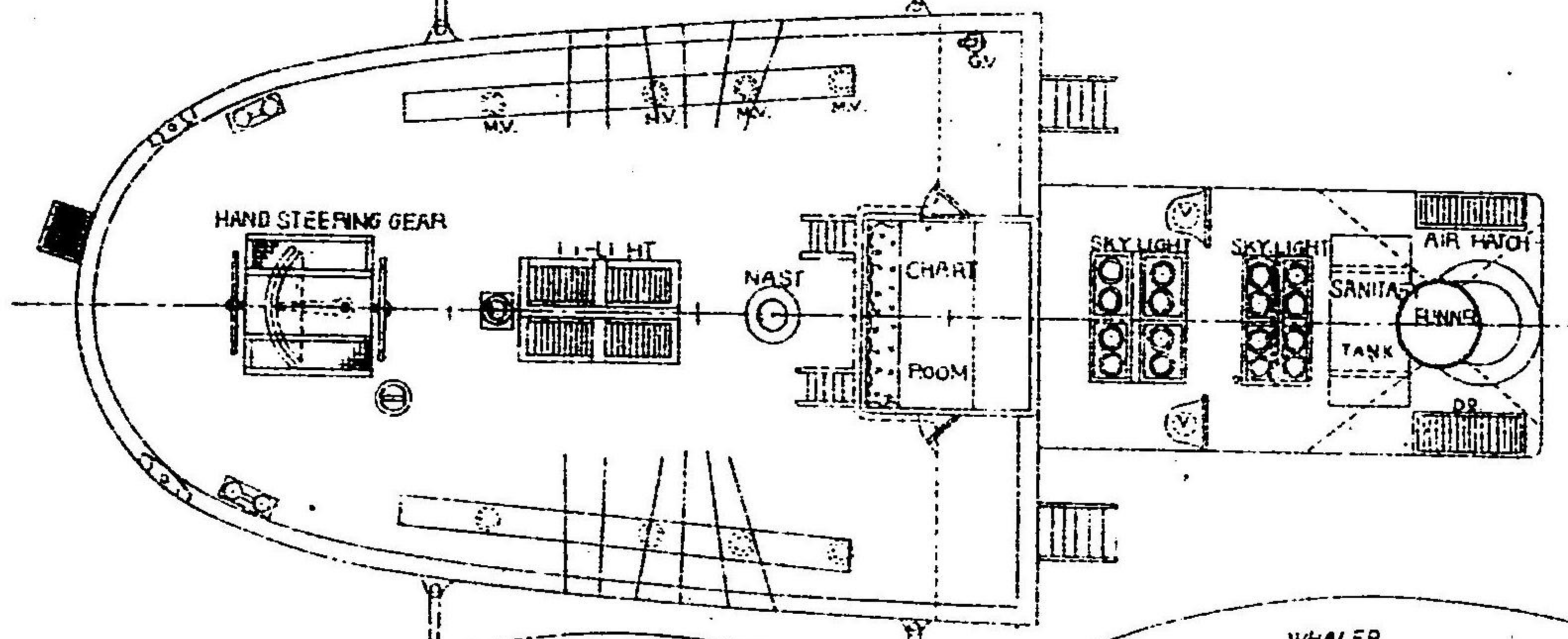
PRINCIPAL DIMENSIONS.
 LENGTH ON W.L. 135'-0"
 BREADTH MD. 28'-6"
 DEPTH MD. 16'-0"
 DRAUGHT, MEAN 12'-0"

PROFILE.

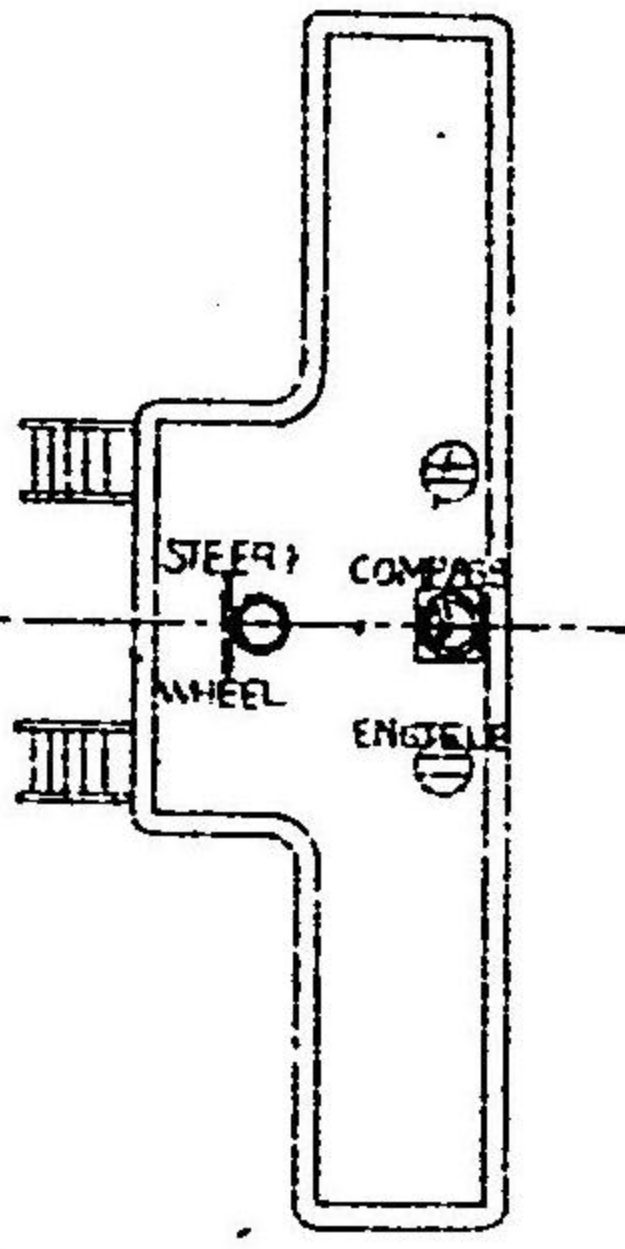




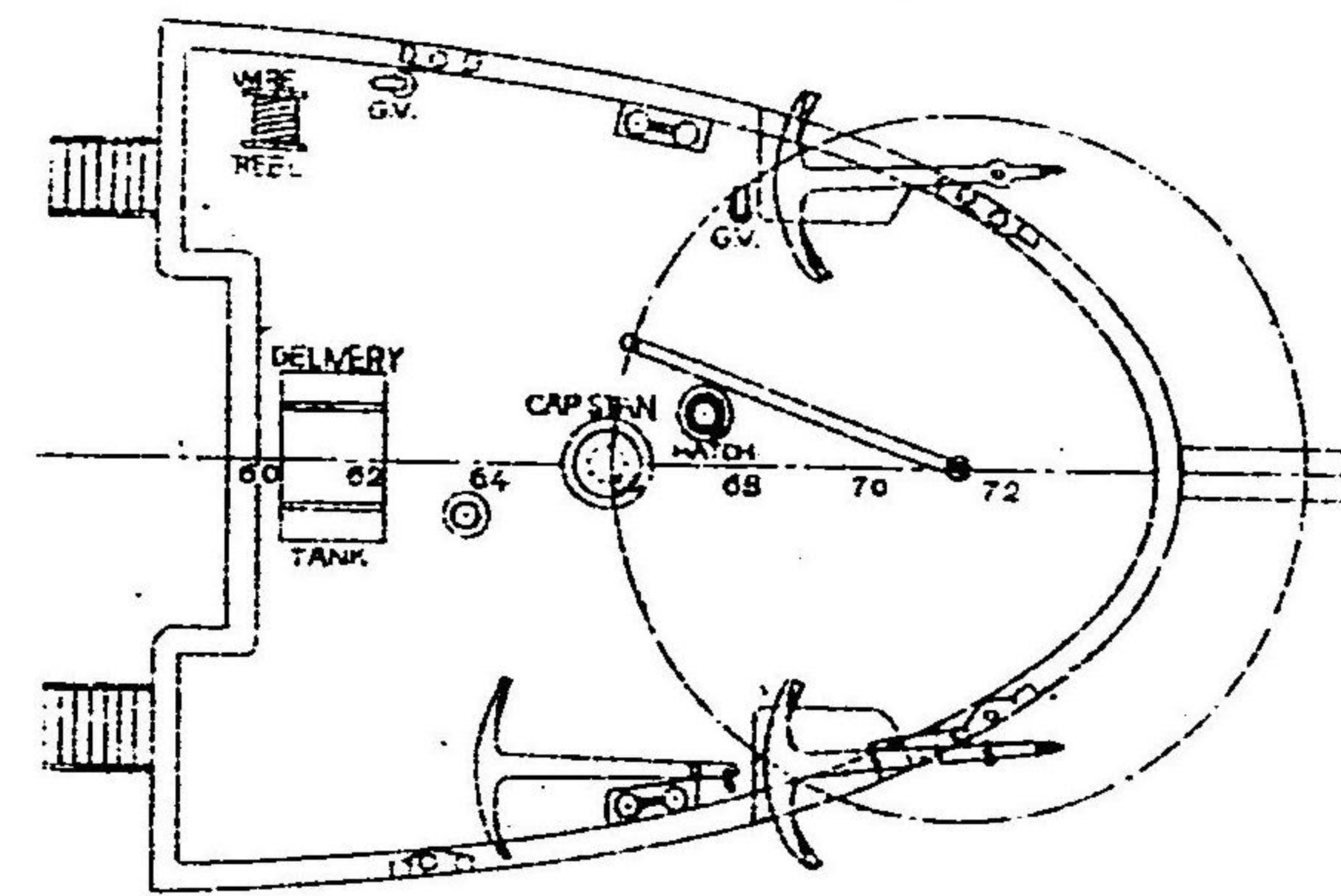
POOP DECK PLAN



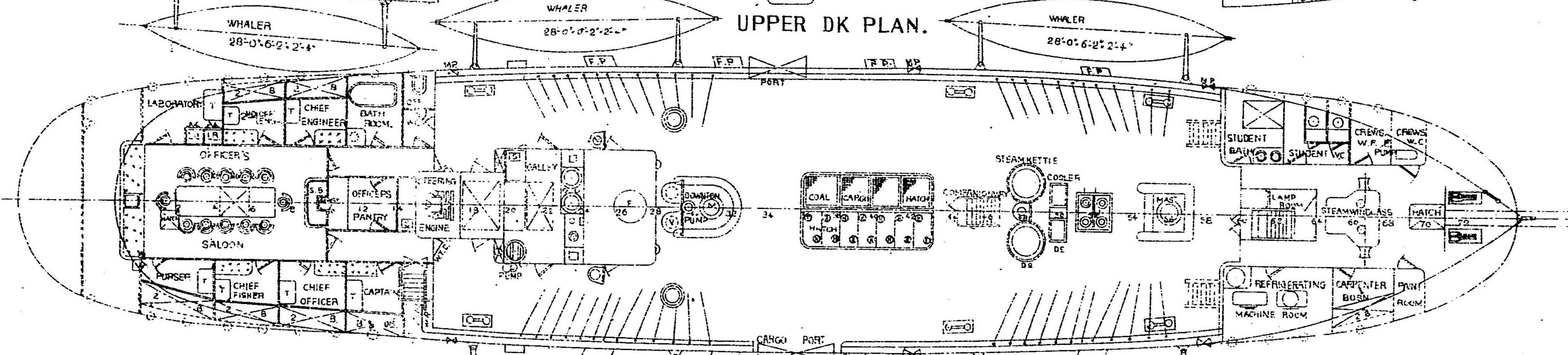
FLYING BRIDGE DECK



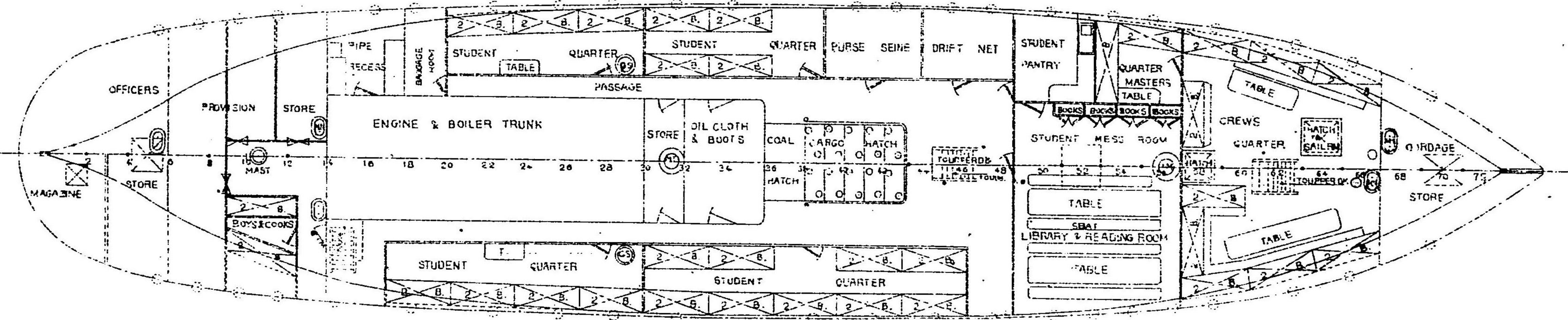
FORECASTLE DECK PLAN



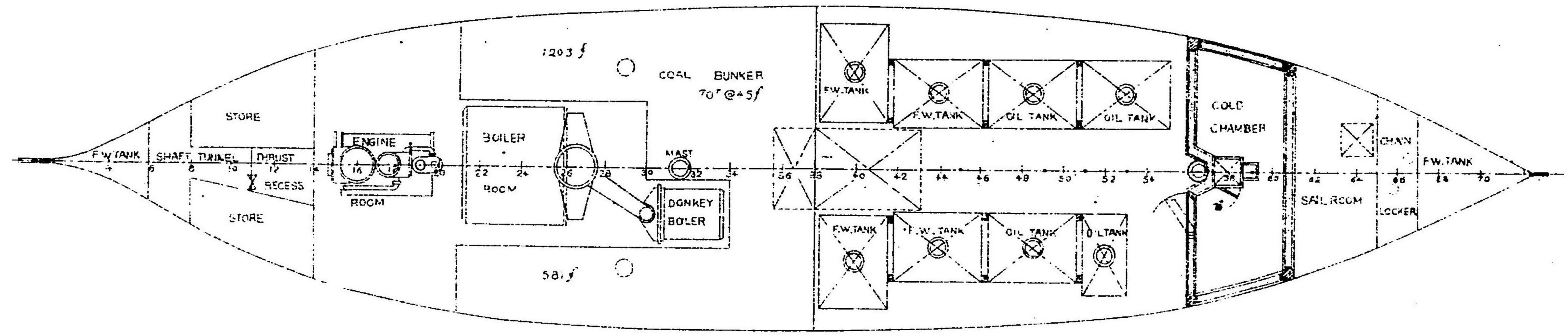
UPPER DECK PLAN



MAIN DECK PLAN



HOLD PLAN



汽機室ノ前部及内側ハ石炭庫ニシテ其容量約百噸ナリ汽機室上部ニ蒸汽操舵機アリテ「ライオン」式「グヱット」上ニ於テ操舵スルヲ得
冷藏機ハ「アンモニア」式ニシテ動力ニハ石油發動機ヲ用テ冷藏室ハ船首艙内前橋ノ所ニアリ内容積約六百立方呎ニシテ防熱装置ヲ施セリ
船艙ハ機關室前部ニアリテ其一部ニ漁獲物ヨリ採取セル油約二十二噸ヲ貯フヘキ鐵製「タンク」四個ヲ備フ
上甲板前橋後部ニ鐵製二重釜及銅製冷却槽ヲ設ケテ鯨油採取ノ用ニ供シ舷外ニハ長二十八呎ノ捕鯨艇及長三十二呎ノ巾著網用漁艇六隻ヲ懸吊シ第二甲板上ニハ漁具一切ヲ格納スヘキ艙庫ヲ有ス
本船ハ學生ノ實習、漁業上ノ試験、漁場及海洋ノ調査等使用ノ途多ク從テ航路亦甚タ廣キニヨリ堅牢ヲ主トシ遠洋ノ航海ニ堪ヘシムルヲ目的トセリ其主要寸法及ヒ造船所設計監督者等左ノ如シ

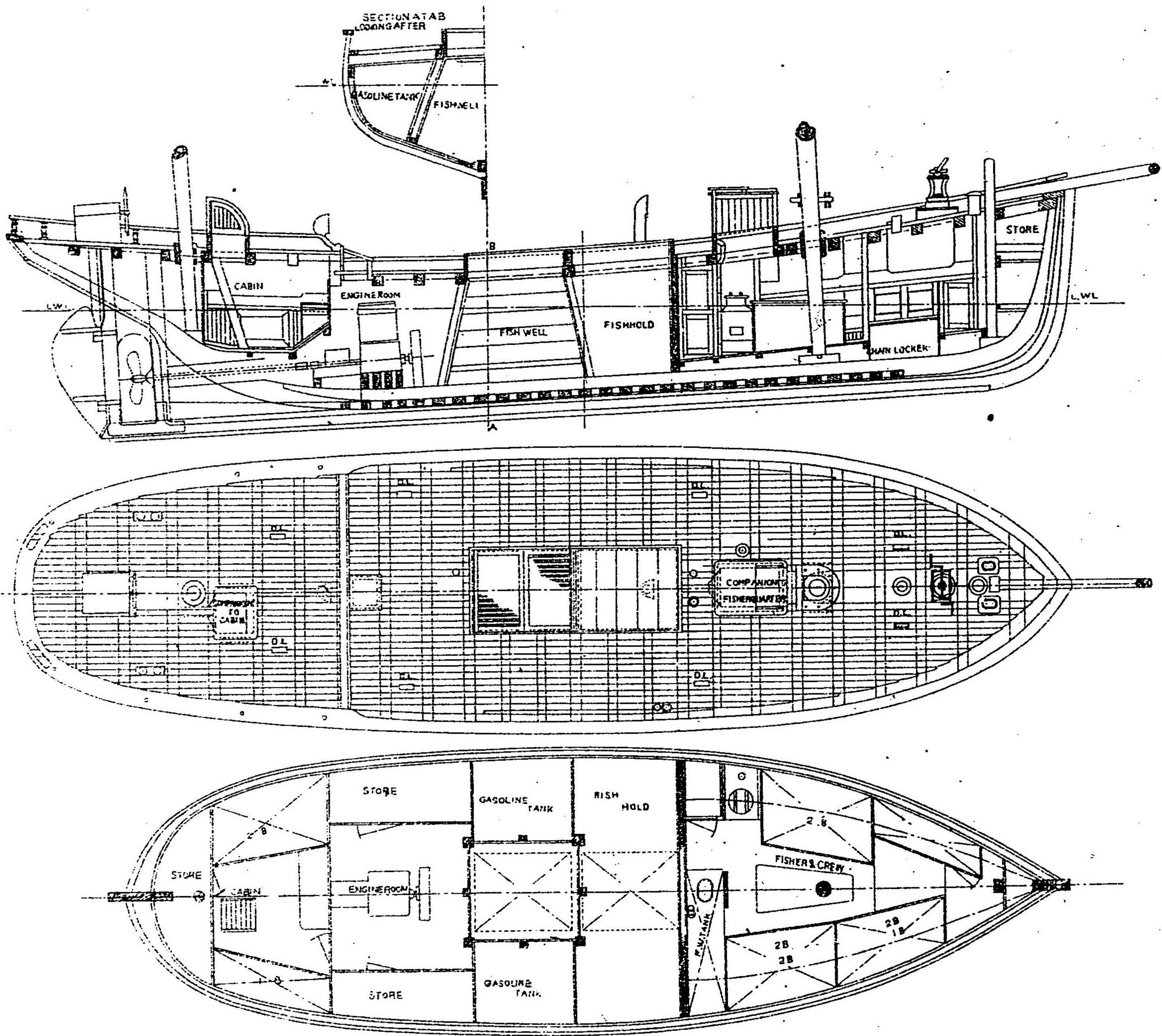
一長
一幅

百三十六呎二吋
二十八呎六吋

設計及監督者
東京帝國大學教授 工學博士 寺野精一

實習船集丸

船體	總噸數
深 六 呎	貳 拾 八 噸
幅 拾 參 呎	五 拾 貳 噸
長 五 拾 八 呎	五 拾 七 噸
	五



本船ハ本所生徒實習ノ用ニ供センカ爲メ東京石川島造船所ニ於テ建造セシ「ケッチ」型
 帆船ニシテ長五十二呎七五輪十三呎八五深六呎〇五總噸數二十八噸アリ補助機關
 トシテ實馬力約二十五ノ「グローブ」式「ギヤソリン」發動機ヲ据エ附ケタリ機關ノミヲ
 使用スルトキハ速力約六哩ヲ出スベク船内ノ配置ハ船員室ヲ後部ニ設ケ其前部ヲ
 區劃シテ機關室ト爲シ之ニ隣リテ活魚槽アリ兩舷ニ四箇ノ通水孔ヲ設ケ活餌貯藏
 ノ際海水ノ循環ヲ計リ活魚槽及ヒ機關室間ノ仕切板ヲ二重トナシ其間ニ木炭ノ粉
 末ヲ填充シテ防熱裝置ヲナシ活魚槽ノ兩側ニハ其部分ノ形ニ適應セル鐵製「タンク」

- 一 深 十六呎七吋半
- 一 平均吃水 十二呎
- 一 總噸數 四百四十八噸二五
- 一 登簿噸數 二百七十七噸九一
- 一 補助機關實馬力 三百〇三
- 一 平均速力 八哩半
- 工 費 拾參萬圓餘
- 製造者 大阪鐵工所

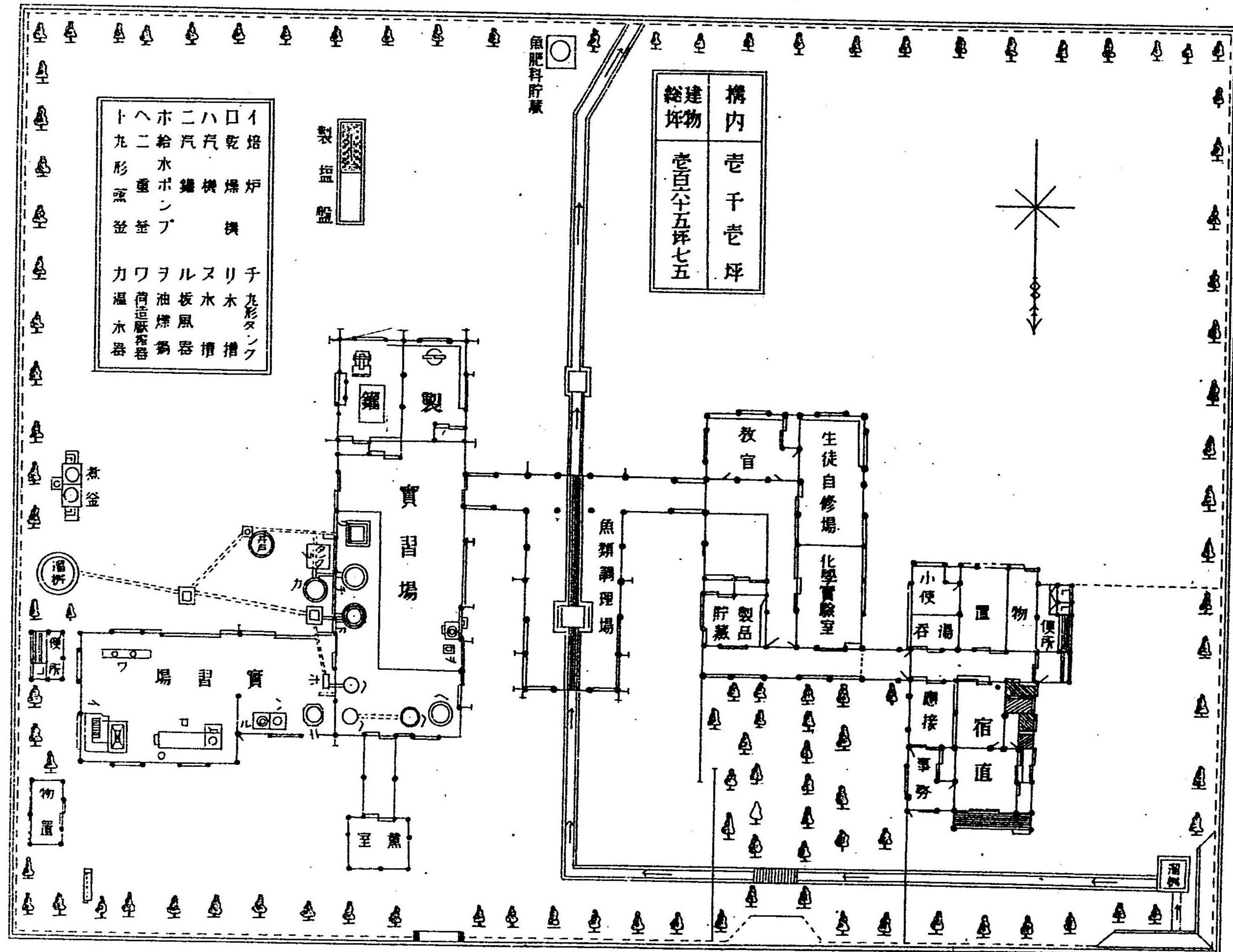
- 海事局技師 工學士 城 與三郎
- 東京帝國大學 工學士 松田勉三
- 工科 學助教 海事局技師 工學士 永松文一
- 水産講習所技師 工學士 岡田少三郎
- 水産講習所技師 黑田九萬男
- 水産講習所助手 上枝平五郎

ヲ設ケ之ヲ「ギヤソリン」槽トナシ必要ナル諸管ヲ以テ機關ニ給油スルモノトス活魚
漕ノ前部ハ魚艙ニシテ漁獲物ヲ收ムル所トス之ヨリ船首ハ生徒水夫及漁夫ノ寢室
ニシテ寢臺及物入等ヲ設備ス
蓋シ本船ハ此種漁船ノ模範トナルヘキモノナルヲ以テ材料ヲ精撰シ嚴重ナル監督
ノ下ニ施工セルヲ以テ船體ハ堅牢ニシテ能ク遠洋ノ狂瀾怒濤ニ堪ユヘシ船型及設
備ハ從來建造セラレタルモノニ就キ長ヲ採リ短ヲ棄テ專ラ操業ノ利便ヲ圖レリ例
セハ船幅ヲ比較的大ニシ同時ニ「ボシチ」層約九噸ヲ船底ニ積載シテ復原力ヲ増大セ
ルカ如キ船首ノ「シャ」ヲ大ニシテ浪乗ヲ能クシ中央部ヨリ船尾ハ出來得ル限り舷
ヲ低クシ炊事室ヲ甲板下ニ設ケ甲板上ヲ成ルヘク廣潤ニシテ作業ニ便ナラシメタ
リ

本船ハ小形漁業用船ノ必要ヲ認め明治四十年四月建造ニ着手シ同年四月其工ヲ竣
ヘタルモノニシテ爾來漁撈科ノ生徒ヲ搭乘シテ實習ニ從事セシム

又千葉縣安房郡館山ヲ定繫港トナシ陸上ニハ漁撈假實習場ヲ設ケ一般ノ漁具船具
等ヲ備ヘ氣象觀測漁具船具等ノ製作設計及ヒ修理等ノ實習ヲナサシム

小田原製造實習場



(二) 製造科

製造科ニ於テハ本所ニ於テ製造化學細菌學等ト相俟テ學理上ノ教授ヲナスト雖モ東京ニ於テハ魚價不廉ナルノミナラス適當ナル製造原料ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ技術ヲ熟練セシムル爲メ他ニ現業ノ實習場ヲ設ク

小田原製造實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣下小田原町ニ設ケ一定ノ期間學生ヲ同所ニ出張セシメテ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ノ途ニ當リ或ハ事業設計ノ任ニ當ラシメ又其設備ノ程度モ民間現時ノ度合ニ適合セシメンコトヲ圖リ機械ノ動力ハ手働ヲ主トシ汽力ハ一個ノ豎立汽罐ヲ備フ又水ノ供給ハ製造事業ニ必用ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ流漕ニ便セリ本場ハ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セリ

(三) 養殖科

養殖科ニ於テハ各種水族ノ性質各相異ナルヲ以テ一ノ實習場ヲ以テ足レリトスルコト能ハス故ニ本所ニ於テハ各實習場ニテ採集シタル材料ヲ用ヒテ教授ヲナスヲ主眼トシ尙ホ各實習場ニ於テ實地ノ研究技術ノ練習ヲナサシム

實習場

淡水養殖ニハ東京市深川區冬木町深川養魚實習試驗池ニ於テ鯉鰻鰻及鼈等ヲ府下北多摩郡宮澤假實習場ニ於テ鮎ヲ栃木縣日光中宮祠湖ニ於テ鱒ノ養殖ニ就キ實習セシメ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ北海道新潟縣下等ノ地方ニ派遣セシムルコトアリ

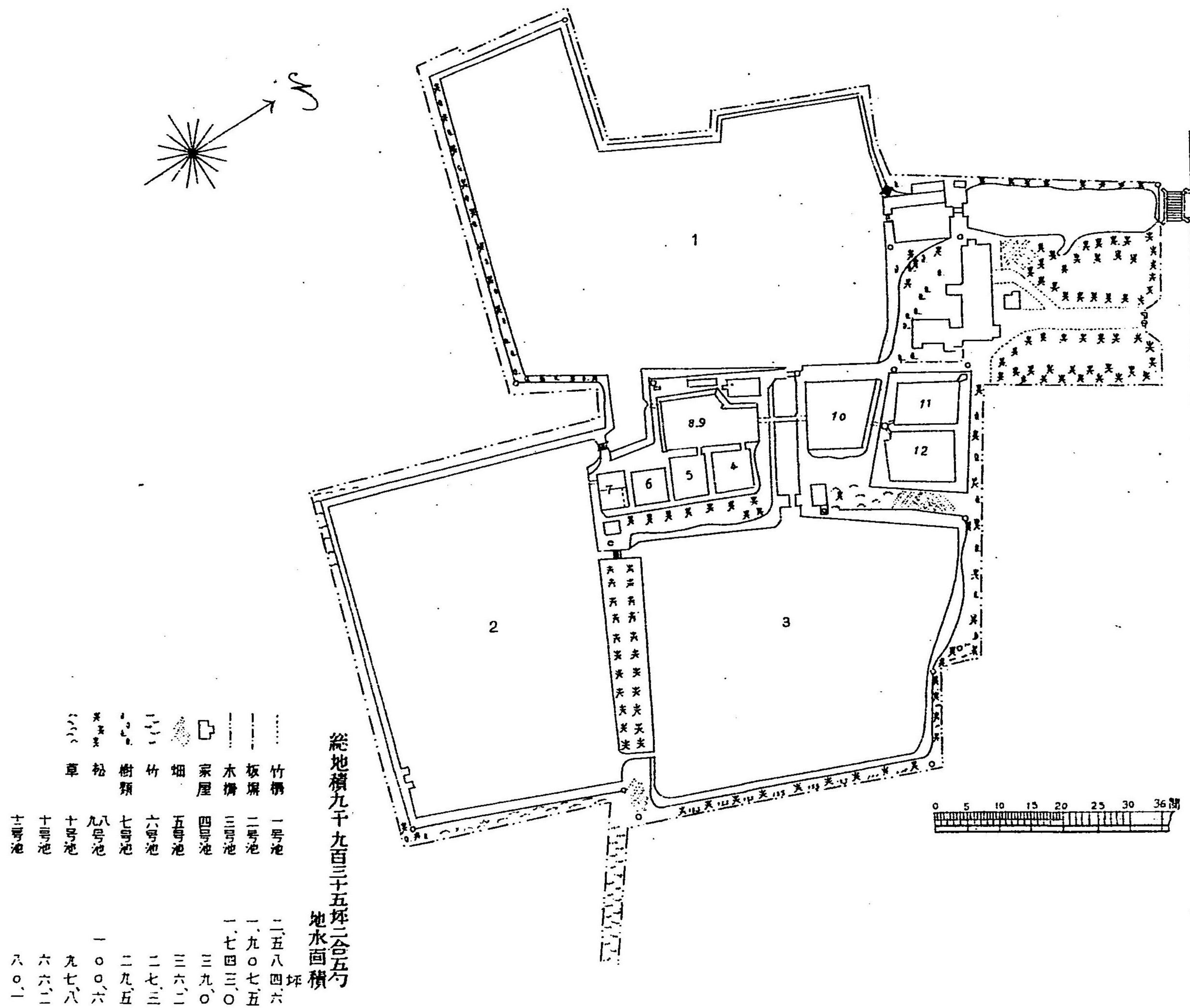
深川養魚試驗池

深川養魚試驗池ハ素農商務省山林局貯木所ヲ更改シテ養魚池トナシタルモノニシテ總地積九千九百卅五坪二合七勺アリ從來ハ大日本水產會ニ於テ其經營ヲナサシメ本所生徒實習ノ用ニ供シタリシカ本年度ヨリ全ク之ヲ本所ノ經營ニ屬セシメ淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼子生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ本養魚池ハ總面積六千七百十七坪二ニシテ之ヲ十一ヶニ區別シ隅田川ノ分流ヨリ用水ヲ引入レ又各池ニハ水閘ヲ設ケテ其水量ヲ調節スルノ裝置トナセルナリ

淺海ノ養殖ニハ品川灣及千葉縣下浦安ニ於テ海苔千葉縣八幡ニ於テ牡蠣其他貝類養殖上ノ實習ヲナサシムト雖モ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ廣島岡山北海道其他ノ

地方ニ派遣スルコトアリ
 洋海性ノ魚類及ヒ藻類ニ關シテハ從來房洲白濱ニ於テ鯉、龍鰻、搗布若布等ニ就キテ
 其生理、發生、蕃殖、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメタルカ本年度ニ於テハ千葉縣下高島
 ニ養殖上ノ實習場ヲ設ケタリ其概要左ノ如シ
 高島實驗場ハ本所生徒ヲシテ外海ニ於ケル水族ノ研究並ニ浮游生物ノ採集及ヒ實
 驗ヲナシ傍ラ潮流ノ方向氣象上ノ關係ヲ測定シテ漁業ニ應用セントスルニ在リ是
 等ノ目的ヲ達セン爲メ孵化室、生洲並ニ實驗室ヲ設ケ又寄宿舎ヲ附設セリ
 孵化室ハ桁行五間、梁間三間ノ石造平家建ニシテ内部ヲ叩トシ中央ニ「マクドナルト」
 式自働孵化槽ヲ備ヘテ人工孵化ノ用ニ供シ周圍ニハ小形ノ「アクアリウム」ヲ設ケテ
 魚貝類ノ習性其他研究ノ便ニ備ヘ是等ニ供給スル水ハ室外ニ設ケタル唧筒ニヨリ
 テ海水ヲ高サ十五尺ノ水槽中ニ汲ミ入レ此水槽ヨリ更ニ配給スルノ裝置トナセリ
 生洲ハ孵化室ノ西側ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨ
 リ成リ内一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他ノ一個ハ長サ三十尺幅十二尺
 深サ九尺ニシテ幅二尺ノ隧道ヲ設ケテ海水ノ交換ニ便ナラシメタリ

深川養魚試驗池

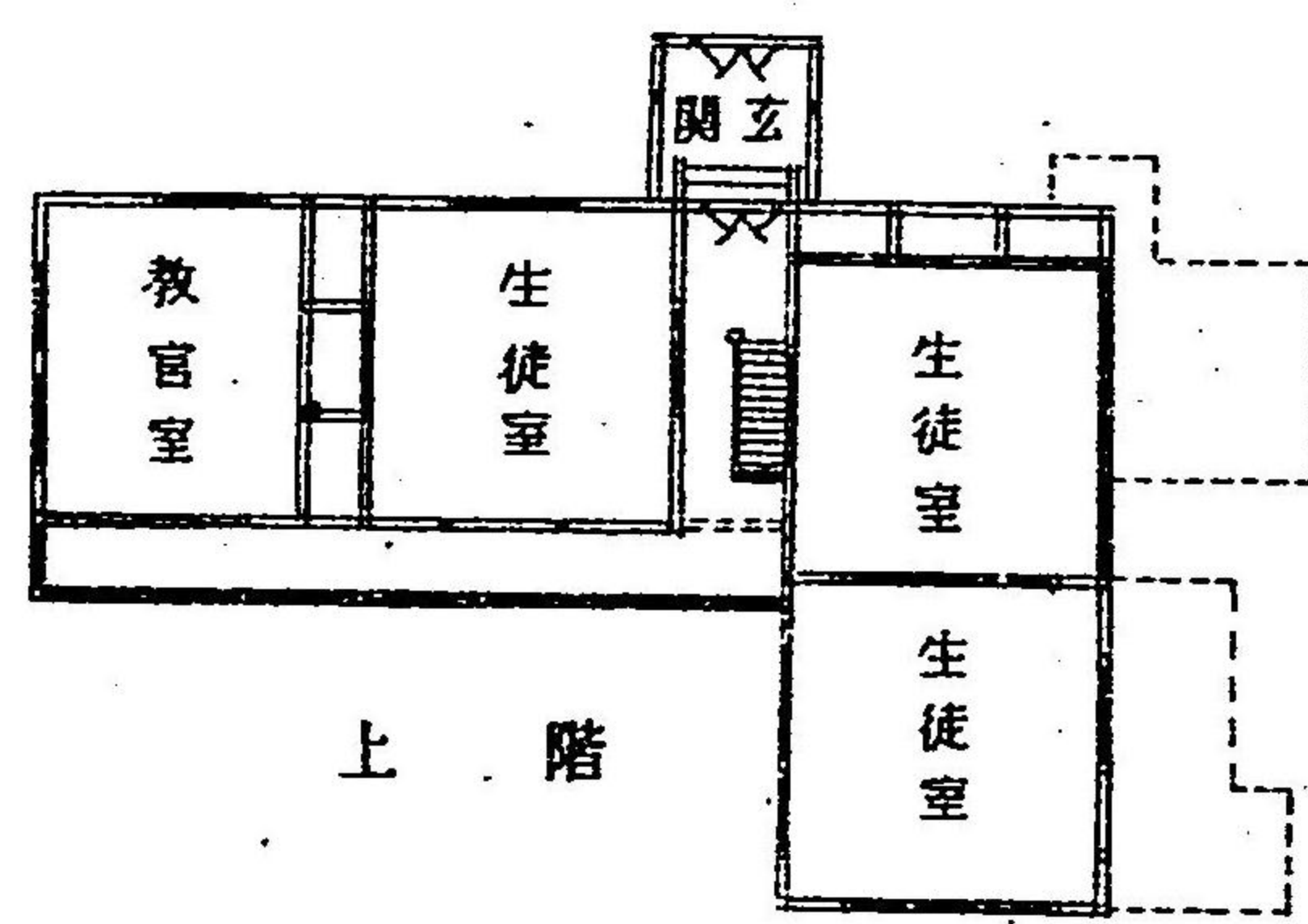


高ノ島實驗場

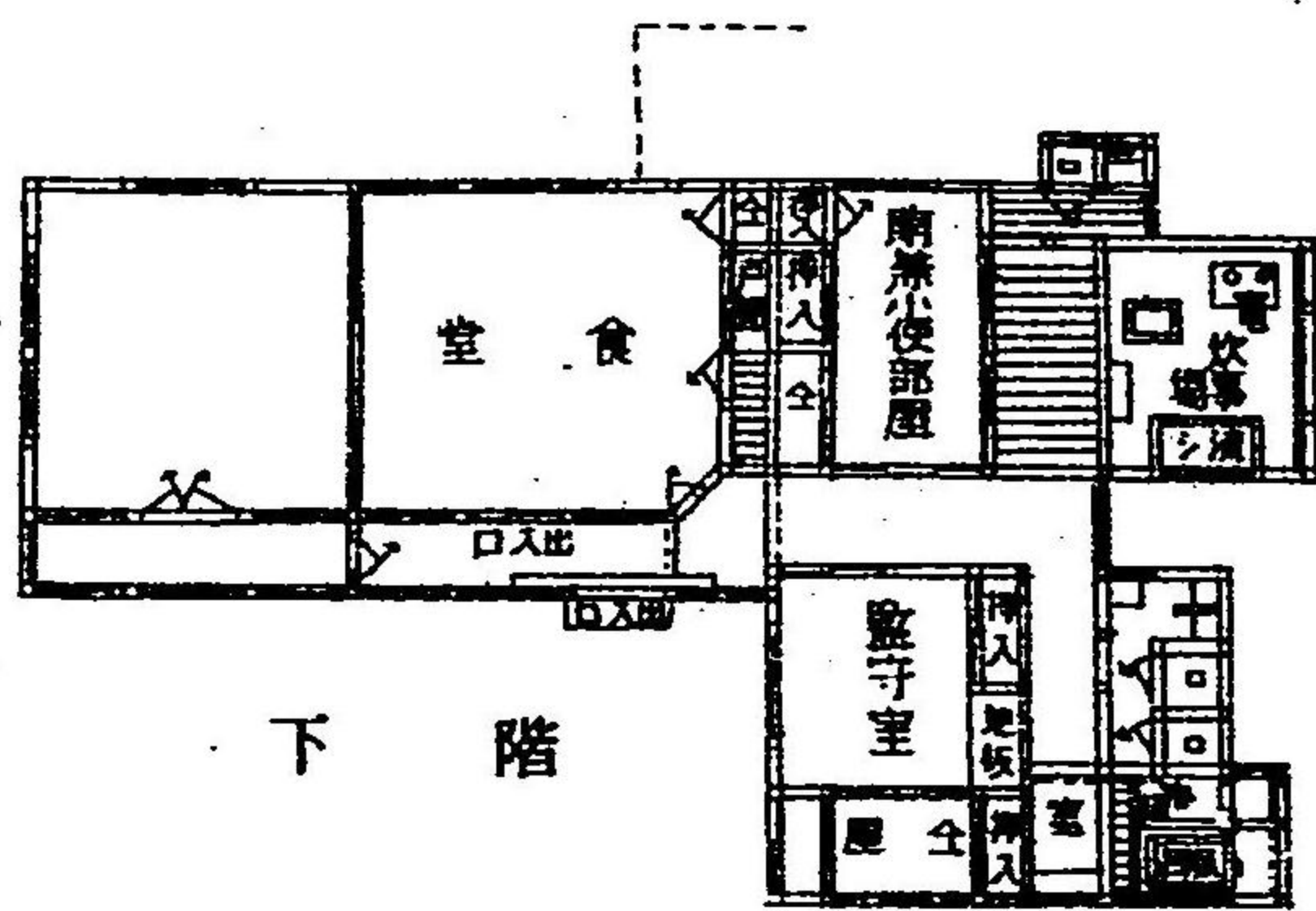
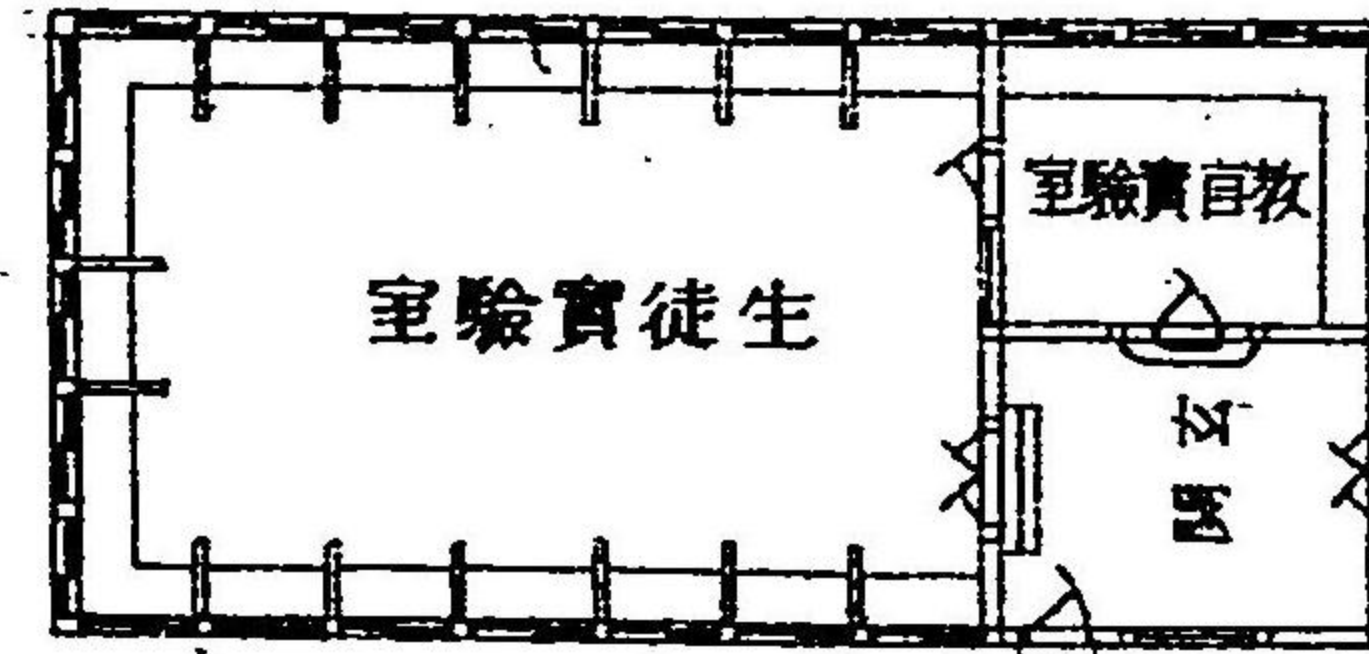
高ノ島縮尺二千二百分一

四百分一

寄宿舎



四百分一

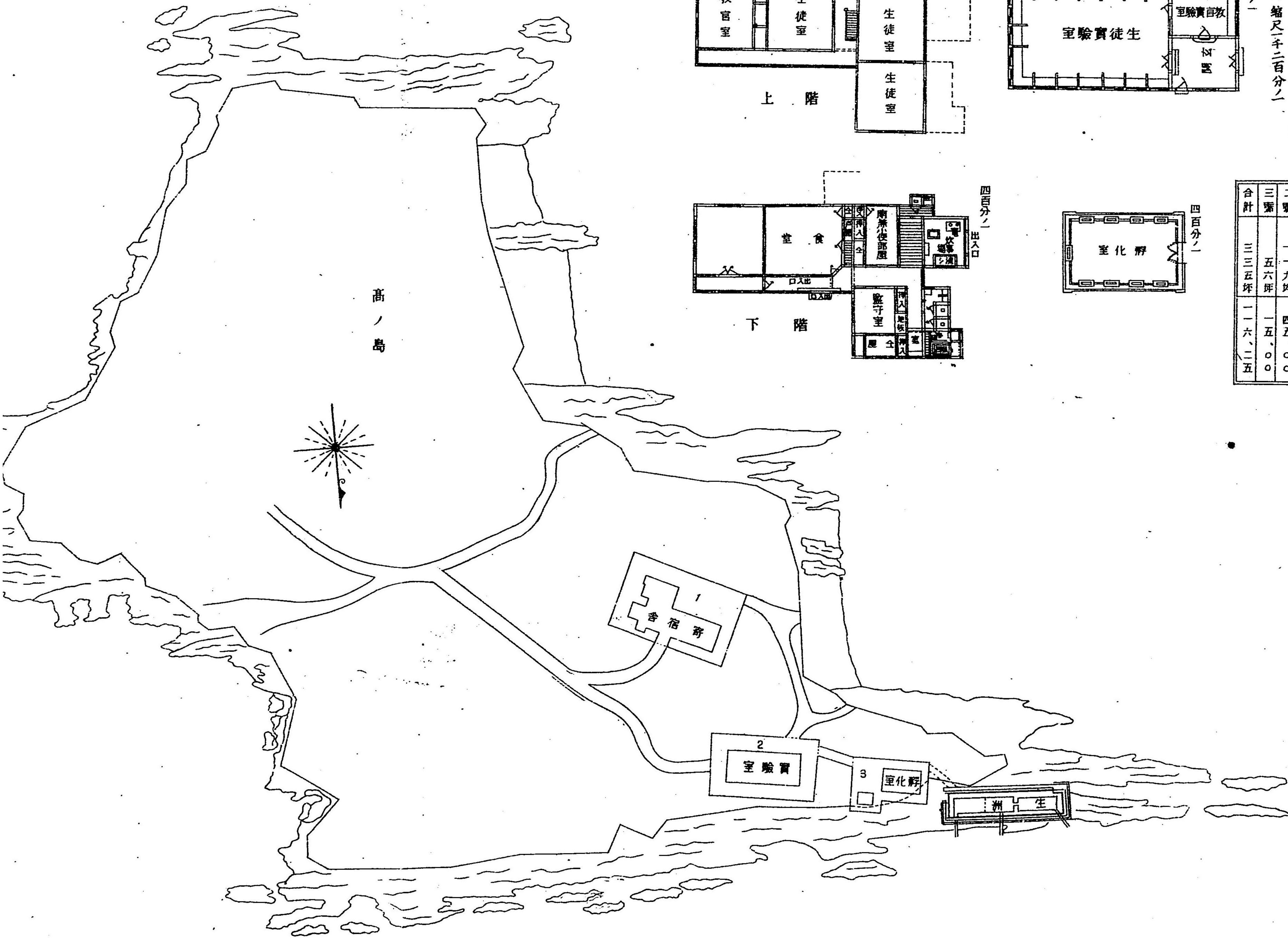


四百分一



四百分一

合計	一號	二號	三號	敷地	建物
三三五坪	一六〇坪	一一九坪	五六坪	五六坪	二五
一六、二五	四五、〇〇	一五、〇〇			



實驗室ハ桁行十間梁間四間半ノ未造平家建ニシテ内部ヲ教官實驗室ト生徒實驗室
トノ二ニ分テ各相當ノ器具機械ヲ設備シテ各種生物ノ研究ニ資セリ
寄宿舎ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ木造二階建ニシテ階上ヲ自習兼寢室ニ充テ階
下ヲ食堂其他ノ室トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ宿舍ニ充ツル
キ人家ナキニヨリ特ニ此設備ヲ必要トセルナリ

第五章 生徒

第一節 在學生徒

一、本科 (百八十名)

漁撈科

第三學年

(二十一名)

竹本正文	東京士族	木村呈	鳥取平民
伊東猪六	佐賀士族	廣山將來	石川士族
黑田藤五郎	愛媛平民	細川可也	栃木平民
加藤平吉	山形平民	秋山立見	香川平民
岡本曉	山口平民	長棟暉友	鳥取平民
新國逸夫	新潟士族	竹田重雄	静岡士族
柴月雅一	長崎平民	濱田五六	廣島平民
秋田榮治	東京平民	能美猪勇武	福岡平民

第二學年

(三十名)

後藤榮助	香川平民	木村成松	福井士族
富永盛治郎	福島平民	王文泰	瀋陽國
伊吹群作	福井平民	上野省三	山梨平民
清水隆道	山口平民	林卯吉	大阪平民
越智章	静岡士族	佐藤敬吉	山形平民
黒野元憲	東京士族	松本修二	兵庫平民
石原重郎	熊本平民	山本靜一	愛媛平民
御厨保太郎	長崎士族	三浦正	秋田平民
矢吹正夫	岡山平民	田中耕之助	東京平民
牛山美廣	長野士族	辻知一	長崎平民
青木真治	北海道平民	藤川若松	廣島平民
山田楯一	愛媛平民	大塚三平	茨城平民
布目孜	石川士族		

在學生徒姓名

八十七

八十六

高橋照文	千葉平民
高木繁春	東京平民
水戸川暹一	廣島平民
伊澤三治	富山平民
小林章之	埼玉平民
神谷秀次郎	大阪平民
八木三千彦	鹿兒島士族
霜村平七	佐賀平民
松尾政次郎	佐賀平民
島田喜一	静岡平民
清藤太郎	静岡平民
丹羽六一	岐阜平民
水野均治	愛知士族

第一學年

宮崎盛	長崎士族
山根播一	埼玉平民
吉川隆治	秋田平民
李士襄	清國
林元良	清國
神山捨吉	岐阜士族
山本三策	新潟平民
高城忠男	石川平民
飯田與兵衛	東京平民
平瀨博	兵庫平民
本田光吉	愛媛平民
小塚銀八	愛知平民
戶井由二郎	熊本平民

大場哲夫	宮城平民
石井文吉	東京平民
照井賢三	岩手平民
野崎知之	福島平民
山田勝衛	長野平民
石切山鈞	静岡平民
國分友海	鹿兒島士族

高柳繁次郎	群馬平民
島田儀三郎	熊本平民
莊司勇	山形士族
何山拔	清國
休學手塚子之吉	栃木平民
休學渡邊太郎	岡山平民
休學福田德太郎	茨城平民

製造科

第三學年

(二十三名)

武藤留八	福島平民
矢野實	富山平民
鈴木儀八	岩手平民
高宮正	山形平民

西村和雄	東京士族
有坂利一	群馬平民
太田貞太郎	東京平民
內藤俊一	山口士族

在學生徒人名

外山源吾	佐田作郎	津田弘一	荻野演一	吉田敬雄	池山光藏	布施達治	中野常德	海老澤光治	岩佐定一	山本祥吉	前澤織衛	中光良介
新潟平民	宮崎士族	東京士族	兵庫平民	熊本平民	三重平民	千葉平民	北海道士族	東京平民	長崎平民	廣島士族	長野平民	熊本平民

第二學年

(二十五名)

安井章一	根岸林三	塚越繼二	深山義道	伊藤藤孝夫	齋藤登樓	橫尾藤作	張尾藤	孫英叙	水谷良三	竹內顯三	菅宮清吉	青田春藏	村上次郎
兵庫平民	兵庫平民	群馬平民	千葉平民	新潟平民	香川平民	群馬平民	清國	清國	奈良華族	神奈川士族	茨城平民	福島士族	山口士族

九十

大內義男	關根豐	作誠一	島村威儀	三井澄	本島琴衛	德永盛雄	內田林治	飯澤發	內田孝雄	武本源四郎	小柳石男	谷村重忠
福島平民	埼玉平民	東京士族	熊本士族	東京平民	長野平民	熊本士族	東京平民	宮城士族	東京平民	岡山平民	山形平民	和歌山平民

第一學年

(二十七名)

川端豐松	鈴木武	清水一司	平林愛民	篠田清志	河村兵三	岩澤計德	牛島實	山添兵造	江副元三	佐藤善右衛門	伍正名	胡澗泰
兵庫平民	栃木士族	東京平民	長野平民	長野平民	三重平民	千葉平民	鹿兒島士族	兵庫平民	佐賀士族	岩手平民	清國	清國

九十一

在學生徒人名

早坂良次	小林雄次	三木保次郎	飯岡忠重	長岡光悟	森田巽	池田良作	入田秋治	川口久四郎	岩澤計德	深澤三郎
山形士族	廣島平民	兵庫平民	栃木平民	福岡平民	佐賀平民	山形平民	鹿兒島平民	三重平民	千葉平民	山梨平民
休學	山田	三宅	徐宗彦	外村政八	中村悌二郎	小野孫一	鳥添真一	大橋哲郎	大川實	
田季男	田政滿	仙吉								
東京士族	福井士族	東京士族	清國	熊本平民	京都平民	静岡平民	京都平民	静岡平民	静岡平民	

養殖科

第三學年

(六名)

九十二

川上宗次	井田助吉	松野三吉	田中林三	神谷尚志	河野加四郎	中村誠一	春藤一市	吉田潔	川村久治郎	田中修次郎	中澤貞雄	阿曾文雄
長野平民	新潟平民	東京士族	大阪平民	静岡士族	廣島平民	愛知平民	岡山平民	福岡士族	福井平民	東京平民	長野平民	千葉平民
鈴木拙郎	塚越靜吉	小林尙次	嶋村滿彦				勝井清一	村松鼎	鬼塚正治	前田九平	牧野謙二	姉帶定助
三重平民	群馬平民	静岡平民	高知士族				東京士族	愛知平民	鹿兒島平民	兵庫平民	静岡平民	岩手平民

(十一名)

(十九名)

在學生徒人名

九十三

前川通也 岩手平民
 高橋宗作 山形平民
 小林彦四郎 栃木平民
 中山勝 熊本士族

二、遠洋漁業科

第三學年

(六名)

長内泰助 岩手士族
 長友寬 宮崎士族
 安達誠三 石川士族

第二學年

(六名)

吉田義男 長野平民
 宮脇伊太郎 鹿兒島平民
 福野久松 石川平民

第一學年

(十二名)

笠村確 栃木平民
 小金丸汎愛 静岡士族
 北村強彦 熊本士族

福井千代馬 高知士族
 秋山實 千葉平民
 柳悅多 東京士族

溝上二郎 兵庫士族
 木下信資 鳥取士族
 渡邊康介 愛知平民

齋藤齋 福島士族
 義田靜夫 鹿兒島士族
 與儀喜宜 沖繩士族
 岩本清太郎 鳥取平民
 市川峰吉 三重平民
 谷本坂惠 岡山平民

三、研究科

(三名)

白井勝三郎 茨城平民
 古閑義康 熊本平民
 新井藤一郎 茨城士族
 飯尾公壽 福岡平民
 後藤節藏 大分平民
 日比義三 岐阜平民

漁撈科

(三名)

流網漁業ニ就テ
 鯉漁業ニ關スル經濟
 網糸ニ於ケル水ノ物理的影響

製造科

(一名)

經節濕熱乾燥ニ就テ
 貯藏後ニ於ケル魚肉ノ變化

在學生徒人名

渡邊理一 東京士族
 武富榮一 佐賀士族
 奥村伊三郎 滋賀平民
 大竹健吉 東京平民
 坪田甲三 茨城平民

四、現業科

製造科 (四名)

○明治四十二年九月入學 (員殼彫刻專修) (四名)

遊佐孫藏 宮城平民 森本繁尾 高知士族
 津田德 高知士族 伊笠小六 東京士族

五、特殊技術員養成科 (八名)

製造科

金子團三 新潟平民 山田童治九 大分平民
 米倉八郎 宮城平民 佐藤與市 大分平民
 吉野久 北海道廳士族 柴田政行 北海道廳士族
 丸山廣作 新潟平民 遠藤金治 宮城平民

第二節 在學生徒府縣別

在學生徒府縣別并二學年別一覽表 (明治四十三年六月現在)

道府縣別	東海區										北	合計	漁業科	研究科	現業科	特殊技術員養成科	總計	
	和歌山	三重	知愛	靜岡	神奈川	東京	千葉	茨城	福島	宮城								岩手
第一學年												1	1					1
第二學年												1	1					1
第三學年												1	1					1
合計												3	3					3
第一學年												1	1					1
第二學年												1	1					1
第三學年												1	1					1
合計												3	3					3

在生徒府縣別

九十六

第三節 在學生徒年齡表
本科

學年別	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年 漁撈科	二四、〇六	二〇、〇九	一八、〇〇
第一學年 製養科	二五、〇二	二〇、一〇	一九、〇〇
第二學年 漁撈科	二九、〇三	二三、〇二	一八、一〇
第二學年 製養科	二六、〇七	二三、〇三	一九、〇〇
第三學年 漁撈科	二七、〇三	二二、〇八	二〇、〇〇
第三學年 製養科	二六、〇〇	二二、〇九	二〇、〇二
遠洋漁業科	二八、〇二	二三、〇二	二〇、一〇
遠洋漁業科	二五、〇三	二二、〇四	二一、〇四

遠洋漁業科

學年	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年	二六、〇五	二四、〇四	二二、〇三
第二學年	二七、〇四	二四、一一	二二、一一
第三學年	二八、〇一	二五、〇〇	二二、〇三

研究科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二五、〇一	二四、〇二	二二、〇五

現業科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二五、〇九	二二、〇六	二〇、〇七

特殊技術員養成科 (製鹽科)

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二四、〇六	二二、〇三	一七、〇六

四、遠洋漁業科生徒乗船表

(明治四十二年六月調)

氏名	乗組船	漁業ノ目的	航路	船質	網具装置	總噸數	船主
長友 寬	小笠原丸	鱈漁業	近海		スクナー型	七、〇〇	内務省
安達 誠三	横濱松田造船所 所ニ於テ研究 岩手縣水産試験 場ニ於テ造						
秋山 實							
柳 悦多							
吉田 義男	萬生丸	カツタートル漁業	近海			一五、二六	神戸汽船株式會社
宮脇 伊太郎	信徳丸						
福野 久松	若狭丸	鱈流網	朝鮮海		カツチ型補助 漁關付	五、〇五	若狭漁業株式會社
蓑田 静夫	全				カツチ型補助 漁關付	全	
岩本 清太郎	第二福浦丸	鮪流網	近海		カツチ型補助 漁關付	一五、二三	木下良外一名
日比 義三	大漁丸	カツタートル漁業	近海		スクーナー型 補助機關付	一六、八五	林竹三郎
溝上 三州	水産丸	鱈漁業	近海		スクーナー型 補助機關付	一六、〇〇	水産會
市川 峰吉	全					全	
與儀 喜宜	全					全	
木下 信資	旭丸	鯉釣漁業	近海		カツチ型補助 機關付	一五、九六	淺沼丈之助
飯尾 公壽	全					全	

第二節 卒業生徒

五 卒業生及就職

(〇ハ優等卒業●ハ死亡者) (明治四十三年六月調)

一本科 (四百一〇名)

(一) 漁撈科

(百五十三名) (姓名イロハ順)

谷本 坂惠己	西丸	鱈漁業	近海	木	カツチ型 機關付	全	兜、強徳光大次郎
白井 勝三郎	全						
後藤 節藏	休學						
古閑 義康							
新井 藤一郎							
齊藤 齊三	榮丸	鮪漁業	近海	木	カツチ型	一八、〇〇	高津英馬

○明治三十一年四月卒業 (十三名)

關東都督府水産試験場技手

家入 四直 福岡士族

山口縣水産試験場技手

橋本 猪太郎 熊本平民

島根縣水産講習所長兼水産學校長

加藤 勢三 三重平民

卒業生就職別

自家營業

南 摩 紀 磨 東京士族

自家營業

長 友 茂 三 郎 宮崎士族

北海道小樽水産學校教諭(兼任)

村 田 乙 三 郎 東京士族

統監府技手

内 田 治 三 郎 山口平民

統監府技手(馬山理事廳)

武 藤 禮 二 宮崎士族

三重縣崎島水産學校教諭

福 田 久 橋 長崎士族

木 村 廣 三 郎 石川士族

○明治三十二年四月卒業(十五名)

菅 谷 毅 茨城平民

大日本水産會漁船々員養成所技師(清水支部在勤)

石 野 敬 之 千葉平民

統監府技手(木浦理事廳)

大 庭 弘 雅 福岡平民

長崎縣水産試驗場技手

大 谷 正 猛 高知士族

自家營業

高 橋 瀏 二 岡山平民

愛媛縣南宇和郡水産農業學校教諭兼校長

自家營業

山 下 節 治 長崎平民

矢 野 新 吉 郎 熊本士族

松 崎 彌 一 鹿兒島平民

右 田 正 知 岐阜士族

小 林 音 八 新潟平民

坂 本 庄 太 郎 佐賀平民

佐 々 木 一 郎 廣島平民

官 下 知 一 東京平民

下 國 冲 助 北海道士族

樋 口 律 太 郎 長崎平民

森 田 忠 三 秋田士族

○明治三十三年四月卒業(十二名)

在米

吉 永 貴 八 郎 長崎士族

田 中 仁 吉 島根平民

卒業生及就職

千葉縣水產講習所技手

愛媛縣水產試驗場技手

在米

鳥根縣講習所技手兼水產學校教諭

水產講習所囑托

統監府技手

千葉縣水產試驗場技手

鹿兒島縣加世田鱒漁業會社取締役

○明治三十四年四月卒業 (八名)

宮城縣水產學校教諭(兼任)

北海道水產聯合會

遠洋漁業科在學(在米國)

田谷英 石川平民

津田美津彦 福岡士族

○中村嘉壽 鹿兒島平民

久保澤 青森士族

●松田林 宮崎士族

小金九増次郎 福岡平民

小島才一 神奈川平民

小木原元吉 鹿兒島士族

●森藏助 鹿兒島士族

●須田正治 山形平民

石川伸治 石川士族

○本間平八 山形平民

長内泰助 岩手士族

三重縣水產試驗場技手

秋田縣水產試驗場技手

韓國釜山水產組合技手

宮崎縣水產試驗場技手

青森縣水產試驗場技手

○明治三十五年四月卒業 (五名)

山口縣水產試驗場技手

統監府技手(城津理事廳)

自家營業

長崎縣北松浦郡水產技手

○明治三十六年七月卒業 (七名)

遠洋漁業科在學(在英)

大川辰藏 兵庫平民

松尾秀夫 長崎士族

前田春水 宮城平民

荒卯忠 福岡士族

喜多山昇來 愛媛士族

額田喜一 香川平民

小島省吾 石川士族

佐藤正孝 山形平民

日高靖 宮崎平民

元木淑人 德島平民

稻見彌一郎 北海道平民

岩田雄 京都平民

福井縣小濱水產學校教諭
三重縣水產試驗場技手

大分縣農學校教諭
水產講習所技手

○明治三十七年七月卒業(十二名)
水產講習所助手

長崎縣西彼杵郡長島真珠養殖場
大日本水產會漁船々員養成所

長崎縣水產講習所技手
韓國農商工部水產局技手
大分縣東臼杵郡水產技手
宮城縣水產試驗場技手

長崎縣長島真珠養殖場

鹿兒島縣水產試驗場技手
青森縣技手

秋田縣水產試驗場技手
トロール漁業船乗組
和歌山縣水產試驗場技手

フットセー獵船乗組
大日本水產會漁船設計部技師
農科大學水產科助手

卒業生及就職

內田四郎七	福井平民
黒木圓太	福岡平民
山田廣次	福岡平民
宮田光	京都平民
關根磯吉	東京平民
堀宏	新潟士族
渡邊定助	愛知士族
渡邊理一	東京士族
田中榮定	長崎士族
中島昌二	廣島士族
中島秀男	島根士族
長井貫吾	新潟士族

舊姓鈴木

○明治三十八年七月卒業 (十三名)

山岸留之助	北海道平民
小松重利	高知平民
美代清信	鹿兒島士族
杉江謙治	石川士族
伊藤八朗	愛知平民
林田甚八	長崎平民
堀江英一	廣島平民
川口錄一	岐阜士族
川添友志	鹿兒島平民
南部寛	福井士族
村上素	宮城平民
上枝平五郎	香川平民
久保雷之助	愛媛平民

自家營業

遠洋漁業科在學(在英)

石川縣水產試驗場技手

沖繩島尻水產學校教諭

○明治三十九年七月卒業 (十二名)

北海道水產試驗場技手

水產講習所技手

岩手縣宮古水產學校教諭

山口縣技手

樺太廳技手

島根縣水產試驗所技手

京都府水產講習所技手

山口縣熊毛郡水產技手

山根左中 島根平民

福井千代馬 高知士族

木暮彌七 群馬士族

水間春吉 德島士族

登坂高三 山形士族

和田美穂 宮崎平民

鎌田武造 青森平民

笠松彌一 東京平民

河野光三 山口平民

田中登 三重平民

中村源一郎 鹿兒島平民

奧津興美 群馬士族

山田純太郎 東京平民

千葉縣技手

岡山縣水產試驗場技手

鹿兒島縣水產試驗場技手

○明治四十年七月卒業 (十五名)

岩手縣水產學校教諭

遠洋漁業科在學

日本橋魚河岸米嘉商店

廣島縣技手

水產講習所助手

新潟縣能生水產學校教諭

自家營業

卒業生及就職

橋川章 宮城士族

榎本彈正 香川平民

杉浦保吉 埼玉平民

○芳賀奈七郎 岩手平民

安達誠三 石川士族

●川島信一 廣島士族

野間口兼美 鹿兒島士族

國司浩助 山口士族

木津和秀男 廣島平民

長田景貞 鹿兒島士族

熊田頭四郎 栃木平民

●小崎彰 宮城士族

秦半兵衛 東京平民

新潟縣能生水產學校教諭
愛知縣水產試驗場技手

樺太廳技手(大迫支廳)

○明治四十年九月卒業 (三名)

遠洋漁業科在學

遠洋漁業科在學

遠洋漁業科在學

○明治四十一年十月卒業 (十七名)

水產講習所助手

千葉縣鴨川水產學校教諭

熊本縣水產試驗場技手

遠洋漁業科在學(造船研究)

村岡貫一	山口平民
小川幸之進	岡山平民
中北靜	岐阜平民
村山吉助	山形平民
東郷保一	宮城平民
長友寬	宮崎士族
秋山實	千葉平民
柳悅多	東京士族
石井悌二	茨城平民
馬場駒雄	岡山平民
新宅定一	廣島平民
飛山信治	新潟平民
渡邊康介	愛知平民

韓國釜山朝鮮海水產組合

宮城縣本吉水產學校教諭

遠洋漁業科在學

農商務省水產局

富山縣水產講習所技手

實業

遠洋漁業科在學

トロール漁船長門丸漁獵長

遠洋漁業科在學

遠洋漁業科在學

遠洋漁業科在學

○明治四十二年七月卒業 (九名)

本所研究科在學

卒業生及就職

河村常一	廣島平民
金子常太郎	岩手平民
吉田義男	長野平民
高山伊太郎	大分平民
竹内仲治	長野平民
村上寅一	愛媛平民
植木憲吉	兵庫平民
福野久松	石川平民
天野莊助	愛知平民
木下信資	鳥取士族
宮脇伊太郎	鹿兒島平民
溝上二郎	兵庫士族
奧村伊三郎	滋賀平民

水産講習所技手 (在外研究生在佛國)

臺灣臺南北門嶼專賣支局

愛媛縣水産試験所技手

在米國

三重縣志摩郡水産巡回教師

山口縣技手

自家營業

福島縣水産試験場技手

自家營業

●本郷益雄 東京士族

●小倉順三 千葉平民

●小野辰次郎 東京士族

●大津吉之介 茨城平民

●岡本賢一 大分士族

●吉川尙方 東京士族

●吉田三俊 大阪士族

●高松勝重 三重士族

●田所清雄 茨城平民

●中西英男 三重士族

●中島庸三 長野平民

●大和和七 東京平民

●大和地由太郎 千葉平民

●山本廣三 大分士族

自家營業

東京府技手

大日本水産株式會社技師

新潟縣能生水産學校教諭

北海道廳技手

佐賀縣水産技手

宮崎縣水産試験場技手

愛媛縣伯方專賣局技手

自家營業

自家營業

自家營業

千葉縣水産講習所技手

卒業生及就職

卒業生及就職

●牧野左馬三 大分平民

●前田庄五郎 兵庫平民

●藤村守一 高知士族

●松生猪三男 福岡士族

●古賀駿輔 佐賀士族

●駒澤幸一 石川士族

●北川克郎 高知士族

●木原方吉 佐賀士族

●宮本周市 山口平民

●三島拙郎 島根士族

●白石靜 鹿兒島士族

●平野友安 千葉平民

●守田貞三 大分平民

●關原東太 千葉平民

○明治三十二年四月卒業 (二十二名)

井關正行	和歌山平民
市橋丁九	東京華族
西堀良造	北海道平民
富樫恒	千葉士族
○小川清一	佐賀士族
大木盛三郎	東京士族
●辻好司郎	石川士族
○中村平八	德島平民
●舊姓小倉 久甫恒介	山口士族
●黒岡安定	東京平民
府中喜八郎	石川平民
府中健藏	石川平民
府中喜八郎	石川平民
小石季一	秋田士族

青森縣水産試験場技手
 茨城縣大津水産學校教諭
 貿易業
 長崎縣技手
 自家營業
 自家營業
 自家營業

○明治三十三年四月卒業 (十五名)
 日本勸業銀行
 茨城縣大津水産學校教諭兼校長
 山口縣水産試験場技手
 自家營業

卒業生及就職

小岩井治世	青森士族
藍野一男	千葉平民
佐々木繁太郎	香川平民
●北野宇佐吉	德島平民
●肝付兼昌	鹿兒島士族
●光増健三郎	佐賀士族
●宮島伊望	千葉平民
●澁谷源七	宮城平民
●廣戸勝藏	島根平民
●舊名長作 一宮弘人	長崎士族
●舊姓渡邊 伊藤哲太郎	茨城平民
●濱田直作	富山平民
大西珍平	岩手平民

千葉縣水産試験場

自家營業 (海産物製造)

自家營業

在米國

在米國

茨城縣技手

北海道小樽水産學校教諭

○明治三十四年卒業 (九名)

農商務省商品陳列所

金高喜一郎 千葉平民

吉田虎藏 德島平民

舊姓大市

室伏俊五郎 三重平民

浦山伍作 石川平民

久保茂助 山口平民

●久木田勝馬 鹿兒島士族

久谷歡一郎 島根平民

阿部轍 宮城平民

齋藤七郎 千葉平民

○水野幸次郎 愛知平民

鹽田愛隣 千葉平民

●池田熊之助 鹿兒島士族

千葉幸三郎 東京士族

樺太水産試験場技手

東洋製粉株式會社專務取締役

水産講習所助教

宮崎縣水産試験所技手

大藏省專賣局技手

○明治三十五年四月卒業 (三名)

鹿兒島縣專賣局技手

德島縣水産試験場技手

北海道宗谷支廳技手

○明治三十六年七月卒業 (十三名)

罐詰製造業

北海道水産試験場技手

舊名利吉

小野寺克彦 宮城平民

中井國太郎 愛媛平民

野元俊一 鹿兒島士族

松原榮 兵庫平民

船橋普吉 神奈川平民

●小見山富市 熊本平民

●朝比奈雪 静岡士族

岩城宣郎 静岡平民

中野速吉 德島平民

久保田信治 兵庫平民

石原重良 山形士族

岩本正孝 長野士族

卒業生及就職

石川縣水產試驗所技手

靜岡水產試驗場技手

自家營業

帝國帆船保險株式會社大阪支店支配人

海外實業練習生(在英國)

北海道廳技手

北海道根室實業學校教諭

水產講習所技手

在米國

○明治三十七年七月卒業 (八名)

岩手縣水產學校教諭

帝國冷藏庫株式會社

渡邊安忠 大分士族

●吉川秀之 石川士族

宗熊 大分士族

內村可一 德島平民

田島百人 熊本士族

松尾靈彦 愛知平民

淺井鎌吉 東京士族

酒井惣次郎 三重平民

菊池健 岩手士族

宮內友吉 鹿兒島平民

志村彦藏 山形士族

堀田嘉吉 岩手平民

河村尊雄 京都平民

水產講習所技手

樺太廳技手

東洋捕鯨株式會社技師

自家營業

大日本水產株式會社

在米國

○明治三十八年七月卒業 (十七名)

臺灣臺南縣鳳山岡村罐詰製造所技師

樺太廳技手

東洋鹽業漁業株式會社技師

福島縣水產試驗場技手

東洋鹽業會社製造所

卒業生及就職

鍋島熊道 高知平民

○安藤俊吉 熊本士族

白石庸次郎 新潟士族

森萬次郎 東京平民

勢島莊太郎 福岡平民

伊東二郎 茨城平民

林祿郎 大阪平民

馬場清止 宮城士族

河西延次郎 香川平民

武季作 東京士族

長屋熊樵 廣島平民

宇加治文雄 茨城平民

宮城縣水產學校教諭

在米國

鈴木製鹽場技師

福井縣立小濱水產學校教諭

水產講習所技手

自家營業

愛知縣水產試驗場技手

水產講習所助教

自家營業

香川縣水產試驗場技手

○明治三十九年七月卒業 (十八名)

愛媛縣水產組合技師

鹿兒島縣專賣局技手

東洋水產株式會社技師

國島徹 北海道士族

安永宗治 福岡平民

牧野健次郎 靜岡平民

松坂省輔 山口平民

益滿行綱 東京士族

江島悅次郎 福岡士族

粟屋協二 愛知士族

木村金太郎 東京士族

鈴木幸太郎 靜岡平民

杉山恒吉 德島士族

池內清 愛知士族

岩井龜治 高知平民

○高崎達之助 大阪平民

富山縣水產講習所技手

自家營業

韓國農商工部財源調查課

德島縣撫養專賣局技手

三重縣水產試驗場技手

東洋捕鯨株式會社技師

岡山縣三田尻鹽務局技手

明治屋合名會社

島根郡簸川郡水產技手

滿韓鹽業株式會社

自家營業

在清國

韓國度支部建築所

卒業生及就職

立川卓逸 新潟士族

仲野九郎 兵庫平民

中山克己 高知平民

中村平 福岡平民

名村竹雄 福井士族

宗像浩次郎 廣島平民

內田耕 東京平民

上田壯一 山口平民

大槻清三 東京平民

山內豐彦 茨城士族

福島政吉 東京士族

赤坂和一 北海道平民

喜代美榮一郎 長崎士族

篠原睦造 島根平民

山口縣三田尻專賣局技手

○明治四十年七月卒業 (十五名)

自家營業

島根縣水產學校教諭

帝國冷蔵株式會社

帝國冷蔵株式會社

自家營業

若菜商店

北海道水產試驗場技手

韓國農商工部鹽業試驗場

大日本水產會

水產講習所助手

柴田匡一

岐阜士族

○吉野孝

長野士族

梅宮鶴藏

福島平民

島崎真哉

高知士族

永峰治光

北海道士族

佐々田榮重

島根平民

里深清一

兵庫平民

中島董一郎

東京平民

穂谷六三

埼玉平民

野口莊次

埼玉平民

岡本剛三

東京平民

山本中巖

廣島平民

舊山本清

東京平民

自家營業

北海道檜山支廳水產技手

樺太廳技手(真岡支廳)

○明治四十年九月卒業 (一名)

海外實業練習生

○明治四十一年七月卒業(二十四名)

自家營業

鹿兒島縣水產技手

高知縣幡多郡水產補習學校教諭

研究生

愛知縣水產試驗場技手

樺太廳技手

水產講習所助手

卒業生及就職

間世田名臣 鹿兒島士族

三森富雄 東京士族

林隆義 東京士族

杉村泰治 宮城士族

濱部常三郎 和歌山平民

西方悌次郎 神奈川平民

富山正巳 千葉平民

富田達道 高知平民

○大竹健吉 東京士族

大島慎二 東京平民

岡田勝夫 東京士族

○田口寧一郎 茨城平民

兵庫縣赤穂專賣局收納所
 自家營業
 新瀉縣立能生水產學校教諭
 大藏省專賣局技手
 大藏省專賣局技手
 帝國冷蔵株式會社
 樺太廳技手
 韓國度支部技手(廣梁灣出張所在勤)
 愛媛縣西宇和郡水產農業學校教諭
 東京貯藏食品製造所
 沖繩縣烏尻水產學校教諭
 小笠原島廳技手
 鹿兒島縣技手
 東洋捕鯨株式會社

角田 鶴雄 埼玉平民
 中嶋 安太郎 愛知平民
 久志 本欣之助 三重平民
 櫛淵 覺太郎 群馬平民
 山極 七郎 長野平民
 松下 高 福岡士族
 前田 隆一 兵庫平民
 眞田 吉之助 石川平民
 藤田 要太郎 愛媛平民
 小島 米吉 茨城平民
 赤嶺 慎一 沖繩平民
 新井 虎之助 東京平民
 相澤 毅 長野平民
 神田 隄三 東京士族

長崎縣水產試驗場兼水產講習所技手
 樺太廳技手
 ○明治四十二年七月卒業 (二十二名)

森 谷 茂 鹿兒島士族
 鈴木 厚三郎 兵庫士族

水產講習所助手

○小倉 善平 福岡士族

商業

若林 忠雄 茨城士族

福井縣小濱水產學校教諭

田中 良平 埼玉平民

六年志願兵

高瀬 重之 兵庫平民

罐詰製造業

田代 實範 福岡平民

水產講習所研究科在學

武晴 宜 群馬平民

實業

坪田 甲三 茨城平民

大藏省專賣局技手

永井 良 神奈川平民

卒業生及就職

岩手縣水産學校教諭

罐詰製造業

粉末寒天製造所

罐詰製造業

樺太廳西海岸海馬島五十嵐漁場

大分縣水産試驗場技手

和歌山縣水産試驗場技手

大日本水産會

北海道廳技手

(二) 養殖科

(五十六名)

○明治三十一年四月卒業 (九名)

百三十
廣島平民

山路政一 愛媛士族

○福井守一 東京平民

小林丈太郎 岡山平民

有賀篠夫 長野士族

北島格一 佐賀平民

北川政次郎 神奈川平民

木村松太郎 群馬平民

三木源吉 兵庫平民

菅原元一郎 岩手平民

張鏐 清國

(姓名イロハ順)

舊姓本木

磯崎徳次郎 千葉平民

自家營業

靜岡縣水産試驗場技手

和歌山縣水産試驗場技手

靜岡縣水産試驗場技手

津田沼養魚株式會社技師

農商務技手(尾ノ道水産試驗場)

○明治四十二年四月卒業 (五名)

滋賀縣水産試驗場技師兼場長

滋賀縣水産試驗場技手

日本銀行

新潟縣能生水産學校教諭

卒業生及就職

舊姓備部

西島新藏 山口平民

大石芳三 佐賀士族

吉川諄 埼玉平民

高橋重太郎 岩手平民

長島幸吉 千葉平民

藤田政勝 兵庫士族

●淺井長三郎 福島平民

阪井安三郎 佐賀平民

○川端重五郎 三重平民

●壁谷可也 東京平民

內山龜五郎 福井平民

山本開作 神奈川平民

須田 東京平民

○明治三十三年四月卒業 (八名)

山口縣水産試験場技師

茨城縣水産試験場技師

自家營業

新潟縣立能生水産學校教諭

農商務省水産局技師

岡山縣水産試験場技師

○明治三十四年四月卒業 (三名)

北海道廳技師

臺灣總督府囑托

○明治三十五年四月卒業 (三名)

○石田五一郎

山口平民

○今野虎吉

福島平民

●伊藤俊治

千葉平民

●緒方茂十郎

大分士族

●小野佐久雄

東京士族

●秋山永次

東京士族

●肥後了三

鹿兒島士族

●櫻田廣吉

秋田士族

●片倉健吉

東京華族

●長島八郎

神奈川平民

●須田義二郎

山形士族

新潟縣水産試験場技師

自家營業

千葉縣水産講習所技師

○明治三十六年七月卒業 (四名)

三重縣水産試験場技師

北海道水産試験場技師 (西別分場)

農商務省水産局技師

水産講習所技師

○明治三十七年七月卒業 (三名)

水産講習所技師 (在外研究生) (在獨逸)

海外實業練習生 (在英)

○明治三十八年七月卒業 (三名)

熊本縣水産試験場技師

水産講習所助手

卒業生及就職

○戶井田盛藏

新潟平民

●內田佐太夫

千葉平民

●前川鯉龜太郎

東京平民

●河合嚴

愛知平民

●山下平造

兵庫平民

●山本由一

東京平民

●越田德次郎

東京平民

○丸川久俊

島根士族

●雅原廣男

鹿兒島士族

●西山伊六

佐賀士族

●東道太郎

東京士族

長崎縣水産試験場技手

○明治三十九年七月卒業 (三名)

自家營業

水産講習所助手

○明治四十年七月卒業 (二名)

宮内省林野管理局技手(中宮湖養魚場)

島根縣水産講習所技手

○明治四十年九月卒業 (一名)

自家營業

○明治四十一年七月卒業 (七名)

島根縣水産試験場技手

宮城縣本吉郡水産學校教諭

宮城縣水産學校教諭

滋賀縣水産試験場技手

百三十四
福岡平民

平木浩

萩原實治

鐘ヶ江東作

谷口利三郎

徳久三種

西村茂生

金子政之助

河合盾丸

藤城存知

柳本斗夫

兵庫平民
佐賀平民

廣島平民
山口平民

山口平民

東京平民

愛知平民

廣島平民

徳島平民

東京服部養魚場

福島縣水産講習場技手

香川縣水産試験場技手

○明治四十二年七月卒業 (七名)

愛媛縣水産試験場技手

宮城縣水産試験場技手

北海道廳技手(高島水産調査所在勤)

小笠原島廳技手

本所助手(高島試驗場在勤)

北海道廳立小樽水産學校教諭

自家營業

一、遠洋漁業科 (二十二名)

○明治三十三年五月卒業 (二名)

水産講習所技師

卒業生及就職

八幡光造

阿部圭

須賀原善太郎

加藤保

武田直

倉上政幹

藤森三郎

青木越雄

目崎守義

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

菅俣吉之助

百三十五

東京平民

○明治三十四年七月卒業 (二名)

南 摩 紀 麿 東京士族

○明治三十四年八月卒業 (二名)

藤 田 勘 太郎 島根平民

○明治三十五年二月卒業 (三名)

木 村 廣 三 郎 石川士族

○明治三十五年七月卒業 (三名)

高 原 剛 太 郎 福岡士族

○明治三十五年七月卒業 (三名)

志 村 次 郎 東京士族

○明治三十六年一月卒業 (二名)

石 野 敬 之 千葉平民

○明治三十六年一月卒業 (二名)

松 崎 彌 市 鹿兒島平民

○明治三十六年一月卒業 (二名)

森 繁 樹 鹿兒島士族

○明治三十六年一月卒業 (二名)

高 橋 瀧 岡山平民

○明治三十六年十月卒業 (一名)

下 田 奎 鹿兒島士族

○明治三十七年五月卒業 (二名)

小 金 九 增 次 郎 福岡平民

○明治三十七年十一月卒業 (一名)

戸 田 半 平 静岡平民

○明治三十八年一月卒業 (二名)

前 田 春 水 東京平民

○明治三十八年三月卒業 (二名)

松 尾 秀 夫 長崎平民

○明治三十八年十月卒業 (二名)

佐 藤 正 孝 山形平民

○明治三十九年四月卒業 (二名)

田 中 仁 吉 島根平民

卒業生及就職

○明治三十九年十月卒業 (一名)

三重縣水産試験所技手

黒木圓太 福岡平民

○明治四十年十一月卒業 (一名)

大日本水産會漁獵職員養成所技師

鏡多記 茨城士族

○明治四十二年八月卒業 (一名)

大島九船長

川添友志 鹿兒島平民

○明治四十一年九月卒業 (一名)

大日本水産會漁船設計部技師

上枝平五郎 香川平民

○明治四十二年十二月卒業 (一名)

沖繩

小松重利 高知平民

○明治四十三年五月卒業 (三名)

信德丸漁獵長

林田甚八 長崎平民

○明治三十九年十月卒業 (一名)

自家營業

國司浩助 山口士族

○明治三十九年十月卒業 (一名)

○明治三十九年十月卒業 (一名)

○明治三十九年十月卒業 (一名)

(姓名イロハ順)

(一) 漁撈科

○明治三十七年十二月卒業 (一名)

自家營業

日高靖 宮崎平民

○明治四十年三月卒業 (一名)

●吉永普八郎 長崎士族

(二) 養殖科

○明治三十七年十一月卒業 (一名)

茨城縣水産試験場技手

今野虎吉 福島平民

○明治三十九年十月卒業 (一名)

水産講習所技手(在外研究生獨逸留學)

丸川久俊 島根士族

(三) 製造科

○明治四十一年十二月卒業 (一名)

海外實業練習生

杉村泰治 三重士族

卒業生及就職

四、現業科

(百八十名)

(姓名イロハ順)

百四十

(一) 漁撈科 (十名)

○明治三十三年三月卒業 (巾着網漁業専修) (五名)

高知縣水産組合

戸田圓次

高知平民

自家營業

土井常吉

新潟平民

自家營業

●大橋直吉

静岡平民

自家營業

紙子次作

石川平民

自家營業

多屋勝四郎

和歌山平民

○明治三十九年十月卒業 (遠洋漁業専修) (五名)

池田兼吉

千葉平民

●石井次郎

千葉平民

福島縣水産試験場奈古會丸

濱田進

鹿児島士族

東海漁業株式會社第一房總丸乘組

渡邊梅吉

千葉平民

東海漁業株式會社第三房總丸船長

津島徳松

千葉平民

○明治四十年九月卒業 (鹽漁業流網及延繩漁業) (五名)

漁業

岩崎吉兵衛

静岡平民

茨城縣水産試験場筑波丸機關士

田崎次郎

茨城平民

漁業

増田鬼一郎

静岡平民

魁漁丸乘組

有原初三郎

静岡平民

漁業

見原萬吉

静岡平民

○明治四十年十月卒業 (延繩及流繩漁業) (四名)

オストン丸船長

津田萬治

千葉平民

若狹丸乘組

上原丈助

同

小鷹丸乘組

平田辰五郎

同

○明治四十年十二月卒業 (鱈漁業) (二名)

鈴木萬之助

同

伊藤猪之助

福岡平民

福岡平民

卒業生及就職

百四十一

北水丸乗組

高鵬丸船長

小田積美

東京士族

○明治四十一年四月卒業 (遠洋漁業専修) (六名)

畑中彦助

愛知平民

西川村三郎

徳島平民

田中由三郎

東京平民

竹内治郎吉

三重平民

柳生政藏

愛知平民

笹田歌吉

東京平民

製帆業

○明治四十一年六月卒業 (捕鯨専修) (八名)

第一大平九砲手

岩村孫作

長崎平民

六甲丸砲手

向井三吉

和歌山平民

天富丸砲手

上原由之助

静岡平民

第五捕鯨丸砲手

倉光三郎

青森士族

山口丸乗組

山岸留之助

北海道平民

第一東郷丸乗組

三浦

柴恒太郎

富山平民

○明治四十一年九月修業 (六名)

京都府水産講習所技手

川村徳左衛門

京都平民

山形縣技手

横山林四郎

三重平民

齋藤與太郎

山形平民

第一金丸乗組

榑梅太郎

新潟平民

鈴木三郎

千葉平民

○明治四十二年一月卒業 (延縄及流網漁業) (二名)

兼城徳

沖繩平民

卒業生及就職

明治四十二年三月卒業 (鱒及鮭漁業) (七名)

- 中世古白吉 三重平民
- 染田五助 長崎平民
- 山本重松 愛知平民
- 湯淺辰太郎 三重平民
- 平松幸枝 三重平民
- 平賀源之助 三重平民
- 洲加本三五右衛門 長崎平民
- 鈴木梅吉 千葉平民
- 岩並勝次郎 千葉平民
- 石塚甚四郎 山形平民

明治四十二年四月修業 (二名)

雲鷹丸乗組

明治四十二年八月修業 (二名)

三榮丸船長

明治四十三年一月修業 (延繩及流網漁業) (一名)

巳酉丸漁獵長

明治四十三年四月修業 (延繩及流網漁業) (四名)

- 中川菊藏 三重平民
- 山下三之助 三重平民
- 出口數平 三重平民
- 湯淺萬吉 三重平民
- 石塚直彦 山形平民
- 佐藤徳松 秋田平民
- 宮崎長太郎 秋田平民
- 鹿内力松 青森平民

(二) 製造科

明治三十一年十一月卒業 (織詰專修) (五名)

- 自家營業 河野巖 宮崎平民
- 自家營業 加藤明二 秋田平民

卒業生及就職

石川縣水産會幹事
自家營業

樋井與八 石川平民
廣瀬宗義 鹿兒島平民
森義直 京都士族

○明治三十二年十二月卒業 (罐詰專修) (五名)

千葉縣水産試驗場

自家營業

自家營業

新潟能生水産學校

○明治三十三年十二月卒業 (罐詰專修) (五名)

在米國
在清國

中村里次郎 愛知平民
内田藏次郎 島根平民
松浦善市 熊本士族
松坂豐隆 富山平民
菅波仙之助 福島平民
及川鼎壽 宮城士族
村田新五郎 愛知平民
山田德松 宮崎平民
●梁瀨弘 長崎士族

○明治三十四年十二月卒業

自家營業

自家營業(在韓國)

罐詰業(在樺太)

自家營業

自家營業

○明治三十五年十二月卒業

京都府水産講習所

自家營業

鹿兒島縣森罐詰製造所

自家營業(水産物製造販賣)

自家營業

自家營業

卒業生及就職

古川德吉 滋賀平民
村江保翼 長崎士族
小松由平 千葉平民
宮内喜一 鹿兒島平民
鈴木兼助 愛知平民
菅原養藏 宮城平民
糸井藤吉 京都平民
米田隆保 香縣平民
中尾千代之助 鹿兒島平民
山田忠五郎 東京平民
新井元吉 和歌山平民
里見時之助 山口平民

○明治三十六年十二月卒業

(續詰專修) (六名)

三重縣水産試験場助手

井上三太郎

三重平民

北海道水産試験場

花見七治

北海道平民

東海漁業株式會社

金子房治

千葉平民

新潟縣水産試験場助手

河合音治

愛知平民

自家營業

田村忠太夫

岩手平民

自家營業(清國上海)

黃桂

清國

○明治三十七年十一月卒業

(續詰專修) (八名)

自家營業

濱壽

和歌山平民

罐詰業(在樺太)

加藤磯次

富山平民

内外水産株式會社(大阪)

八木佐吉

滋賀平民

自家營業

山田達

愛知平民

大日本水産株式會社(富山工場)

松浦金平

兵庫平民

東洋水産株式會社助手

紺谷平治

石川平民

自家營業

相木嘉一

福井平民

自家營業

森真

靜岡平民

○明治三十八年十二月卒業

(續詰專修) (十名)

自家營業

堀内謙藏

岩手平民

自家營業

堀部貫一

大分平民

自家營業

小野末男

福島平民

自家營業

大上伊勢吉

兵庫平民

自家營業

高橋敬三郎

三重平民

自家營業

田河恒藏

熊本平民

自家營業

高杉賢藏

秋田平民

日本罐詰株式會社

田中寅之助

愛知平民

自家營業

仲田文五郎

沖繩平民

自家營業

森本善之助

和歌山平民

○明治三十九年十二月卒業

(續詰專修) (十名)

卒業生及就職

東洋水産株式会社

自家營業

大日本水産株式会社

東京貯藏食品製造所

自家營業

自家營業

自家營業

○明治四十年十二月卒業

(罐詰專修)

(六名)

京都府水産講習所
自家營業
罐詰業(在樺太)

濱口義正	三重平民
西川正次	東京士族
放生要松	富山平民
趙楯	清國
相馬柳吉	秋田平民
梅野忠致	愛知平民
岡田太郎	和歌山士族
矢部喜藏	新潟平民
松浦久雄	三重士族
小林義篤	新潟平民
一色彌太	京都平民
石川喜助	北海道平民
秩父重宏	青森士族

國後島五十嵐罐詰製造所

大分縣水産試驗場

罐詰業(在樺太)

○明治四十一年十二月卒業

(罐詰專修)

(七名)

廣島縣高須罐詰製造所

●

自家營業

自家營業

近江罐詰製造所

○明治四十二年十二月修業

(罐詰專修)

(九名)

自家營業

三浦大造	愛知平民
野村利兵衛	京都平民
大畑伊八	三重平民
伊藤未千代	山口平民
今藤一馬	宮城平民
岩崎正己	島根士族
石原彦三	三重平民
河野德治	神奈川平民
野川重五郎	岩手士族
小梶誠一	滋賀平民
今立昌	福井士族
馬場一夫	滋賀平民

卒業生及就職

自家營業 畠中敬三 山形平民
 自家營業 高橋善藏 宮城平民
 自家營業 栗本冬助 北海道平民
 國後島星野罐詰製造所 山本金吉 三重士族
 自家營業 吉川廣助 熊本平民
 東洋水產株式會社 佐脇哲郎 三重平民
 自家營業 三橋淳 鳥取平民

○明治三十二年三月卒業 (魚油、魚蠟、沃度專修) (五名)

三重縣志摩郡役所書記 田中清之助 三重平民
 自家營業 (沃度製造業) 山口三之助 千葉平民
 自家營業 昆良八 岩手平民
 自家營業 越瀨市松 和歌山平民
 自家營業 佐藤義厚 茨城平民

○明治三十三年二月卒業 (魚油、魚蠟、沃度專修) (五名)

自家營業 畑谷丑太郎 北海道平民
 自家營業 赤平卯十郎 青森平民
 自家營業 ●佐藤漁太郎 宮城平民
 自家營業 宮津吾次 山口平民
 自家營業 杉本傳太郎 静岡平民
 ○明治三十四年三月卒業 (魚油、魚蠟、沃度專修) (三名)
 自家營業 田中富佐 福井平民
 自家營業 松本龜太郎 高知平民
 自家營業 木高金之助 千葉平民
 ○明治三十四年十二月卒業 (魚油、魚蠟、沃度專修) (四名)
 高知縣津水產補習學校長 池内林太郎 高知平民
 自家營業 熊谷伊三郎 福岡平民
 自家營業 山口未助 佐賀平民
 自家營業 森崎茂樹 靜岡平民
 關東州大連水產組合

卒業生及就職

○明治三十六年四月卒業

(魚油、魚蠟、沃度專修)

(四名)

自家營業

舊名榮改

米田隆保

青森平民

橫濱魚油株式會社

自家營業

前田隆次郎

愛知平民

自家營業

小松由平

千葉平民

自家營業

齋藤玉治

愛知平民

自家營業

六久保直太郎

高知平民

自家營業

島山吉雄

宮城平民

自家營業

砥板源三郎

福岡平民

自家營業

古川九滿次

熊本士族

自家營業

坂口榮太郎

静岡士族

○明治三十八年十二月卒業

(魚油、魚蠟專修)

(五名)

自家營業

土岐音吉

千葉平民

自家營業

高鍋志郎

兵庫平民

京都府水産講習所技手

自家營業

田井安太郎

京都平民

自家營業

曾根武兵衛

和歌山平民

自家營業

松浦萬龜太

島根平民

自家營業

樺太西海岸小田友漁業在勤

宮城士族

自家營業

花坂傳吉

岩手平民

自家營業

小澤謙三

千葉平民

○明治三十四年十月卒業

(經節、其他節類專修)

(三名)

自家營業

夫黒一誠

高知平民

自家營業

齋藤初吉

長崎平民

○明治三十五年十月卒業

(經節、其他節類專修)

(五名)

自家營業

奏信之助

島根平民

自家營業

米田隆保

青森平民

安増罐詰製造所

熊谷伊三郎

福岡平民

卒業生及就職

百五十五

自家營業 山本荒太郎 和歌山平民

自家營業 山下藤三郎 鹿兒島平民

自家營業 市川忠吉 山形平民

自家營業 山岡則重 高知土族

沖繩縣水産株式會社社長 安里積勳 沖繩平民

岩手縣技手 箱石米定 岩手平民

自家營業 名嘉幸德 沖繩平民

自家營業 德平秀那 沖繩平民

自家營業 竹田信平 島根平民

自家營業 國吉榮洪 沖繩平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

自家營業 淺沼文太 東京平民

卒業生及就職

自家營業

○明治四十年十月卒業 (冷蔵法) (署名)

有魚丸機關士

桂 信吉

京都平民

(三) 養殖科

○明治四十一年三月卒業 (鮭養殖專修) (三名)

愛媛縣小西眞珠養殖所技手

石川廣之助

茨城平民

秋田縣水産試験場技手

柳川儀之輔

秋田平民

自家營業

野村兼次郎

宮城平民

五、水産教員養成科

○明治三十年十二月卒業 (十五名)

海外實業練習生 (在米國)

市原佐太郎

高知士族

愛媛縣農學校教諭

羽生辨之進

愛媛士族

北海道十勝國帶廣高等小學校長

犬竹敬造

北海道士族

靜岡縣富士農林學校教諭

加藤併砂吉

靜岡士族

新潟縣中頸城郡視學

片田久次郎

新潟士族

鹿兒島縣立商船水産學校教諭

加藤登太郎

山形士族

福岡縣八女中學校教諭

正當彌藏

岡山士族

朝鮮海産組合技手

正林英雄

長崎士族

○明治三十一年三月卒業 (十名)

秋保知次

京都士族

島根縣那賀郡水産技手

佐々木武治

青森平民

高橋縣水産聯合

蒲田良輔

福井平民

水産講習所助教兼書記

宮崎賢司

長崎士族

岩手縣技手

平山嘉門

岩手平民

秋田縣旭尋常高等小學校長

關菊次

秋田平民

○明治三十六年四月卒業 (十名)

愛媛縣私立佐友開尋常高等小學校訓導

西原佐之

愛媛平民

石川縣金澤專賣局技手

長内清吾

青森平民

卒業生及就職

自家營業

茨縣縣多賀郡大津水產學校教諭學

三重縣肥料検査官

鳥取縣技手

青森縣水産傳習所技手

鳥取縣岩美郡浦富水産學校教諭兼校長

高知縣水産組合

製鹽技術員養成科

○明治三十九年三月卒業 (十名)

韓國仁川朱安製鹽所

茨城縣專賣局收納所技手

香川縣大川郡引田村專賣局出張所

齋姓高江 山本 次郎八 熊本平民

松波 虎之助 和歌山平民

佐藤 暹 岡山平民

喜多川 良吉 千葉平民

志水 清 石川士族

篠原 直衛 兵庫士族

森川 萬藏 廣島平民

福井平民

市川 信夫 鹿兒島士族

濱田 登吉 栃木平民

富田 高治 埼玉平民

東條 高治 新潟平民

兵庫縣赤穂專賣局赤穂收納所

愛知縣專賣局名古屋收納所技手

○明治四十年三月卒業 (八名)

大藏省專賣局收納部技術課

鹿兒島縣專賣局加治木收納所技手

岡山縣專賣局味野收納所技手

岡本 靜一郎 福岡平民

大河内 重義 和歌山平民

中原 經治 福島士族

中村 丈 福岡士族

北川 九郎 滋賀士族

平林 保義 東京士族

尾關 素一 東京士族

吉武 幾甫 山口平民

永井 重藏 兵庫平民

黑田 藤五郎 愛媛平民

黑住 安臣 岡山平民

松田 一平 德島平民

三浦 一 岩手平民

卒業生及就職

長崎縣西彼杵郡喜々津村專賣局出張所技手

○明治四十一年三月卒業

(六名)

大阪府專賣局大阪收納所技手

山口縣專賣局三田尻收納所技手

水産講習所助手

岡山縣專賣局味野收所技手

德島縣專賣局撫養收納所技手

熊本縣專賣局熊本收納所技手

○明治四十二年三月卒業 (十名)

兵庫縣赤穂專賣局技手

愛知縣名古屋專賣局技手

熊本縣專賣支局技手

德島縣飯出專賣支局技手

三輪清彦 愛知平民

橋本昇次郎 栃木平民

片山甲太郎 三重平民

永山千春 東京士族

安岡貞雄 高知士族

木村新太郎 香川平民

清家幹一郎 愛媛平民

糸雅仁 埼玉平民

伊藤純造 埼玉平民

壬生勇一郎 東京平民

大塚松次 栃木平民

早稻田俊彦 愛知平民

鹿兒島縣加治木專賣局技手

岡山縣味野專賣支局技手

熊本縣專賣支局技手

德島縣撫養專賣支局技手

○明治四十三年三月卒業 (九名)

大藏省專賣局在勤

宗安宅 福島平民

那須文六 香川平民

酒井鐵三郎 茨城平民

木下實治 京都平民

稻垣基一 香川平民

羽島久雄 東京平民

大澤國助 東京平民

武田晴彦 鹿兒島士族

谷悅三郎 德島平民

工藤甚五郎 青森平民

五島彰 茨城平民

相場好作 群馬平民

宮宗料介 廣島平民

岡山縣味野專賣支局技手

大藏省三田尻第二試驗場在勤

卒業生徒狀況

卒業生及就職

卒業生徒状況	區	海東北	區海南西	
	山奈栲群埼	北	德高宮沖鹿熊佐長福	大兵
	海	兒		
梨良木馬玉	道	島知崎繩島本賀崎岡	坂庫	
		二 三 六 一 二 四 二 七 七	四	
		六 七 一 八 四 五 二 八	三〇	
		一 二 四 一	三	
		九 〇 六 二 二 八 一 九 一 六	三七	
		一 四 二 三		
		一 一		
		一 七 二 六 五 四 一 七 四	三	
		一 一 二	二一	
		二 一 二 二	一	
		三 〇 三 六 一 五 二 二 九	五	
		二 〇 九 八 三 三 三 三 二 五	三二	

百六十七

區海内	區海北	區
香岡廣愛山大	秋山新石富福京鳥島	青岩宮
川山島媛口分	田形潟川山井都取根	森手城
四 四 七 三 五 二	一 六 四 八 二 二 二 三	二 三 五
三 二 四 三 五 六	一 二 二 八 二 一 一 五	一 四 五
二 四 一	一 二 一 一 一	一 一
七 六 三 六 四 九	三 〇 七 六 三 四 三 二 九	三 八 一
一 一	一 一 二	
	一	
一 一 三 一	六 五 五 四 五 三 七 一 六	八 七 九
二 一 一	一 一 一 一 二 一	二 一
三 一 二 一 二	一 一	一 一
五 四 四 二 六 一	七 七 七 六 五 五 九 一 九	一 九 九
一 〇 一 八 〇 〇	〇 七 四 三 七 九 二 三 八	一 一 二

百六十六

總計	製鹽技術員養成科	教員養成科	計	現業科					研究科	
				鮭鱈養殖法	冷藏法	鯉節類	油蠟沃度	罐詰		遠洋漁業科
一三九	一	一	八六	一	一	一〇	二七	四一	七	一
八六	一	一	四六	一	一	二	二	一四	一八	一
二〇	一	二	四	一	一	一	一	一	一	一
一〇二	二五	五	三	一	一	一	一	一	一	一
三九	一	一	八	一	一	一	一	二	五	一
八七	一	一	一〇	一	一	一	一	五	三	一
三三	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	一	八	一	一	一	一	一	一	一	一
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八・一七	一	一	三	一	一	一	一	三	一	一
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	一	三	八	一	一	一	一	四	三	一
九九	一五	二	三九	一	一	四	一	一一	二四	一
七・六	四三	二五	二〇九	三	一	二八	三四	八二	六一	五

遠洋漁業科	計	本業科		科別	類別
		養殖科	製造科		
三	四八	六	三三	九	營自
四	三五	三	二二	九	商及
四	一〇	一	四	六	會社
二	六七	八	四一	一八	及合組
一	二八	五	一一	二	水產
三	七三	一九	二五	二九	水試
一	二九	六	二二	一一	水講
一	一	一	一	一	水習
一	五	一	三	三	水習
一	二五	一	二	二	其
一	一	一	一	一	所本
一	六	一	二	三	他其
一	二	一	九	二	在
一	三	一	一	二	海
一	三一	五	一七	九	外
六	三七	二	一七	一八	練實
二四	四一〇	六五	二〇	一五三	他其
					役兵
					亡死
					詳未
					計總

卒業生就職狀況一覽表 (明治四十三年六月調)

總計	國外		外	
	清	國	長野	岐阜
一五三	一	一	二	四
二〇一	一	一	六	一
五六	一	一	一	一
四一〇	一	一	九	五
二四	一	一	一	一
五	一	一	一	一
二〇九	二	一	一	三
三五	一	一	一	一
四三	一	一	一	一
三〇六	二	一	一	四
七・六	三	一	九	五